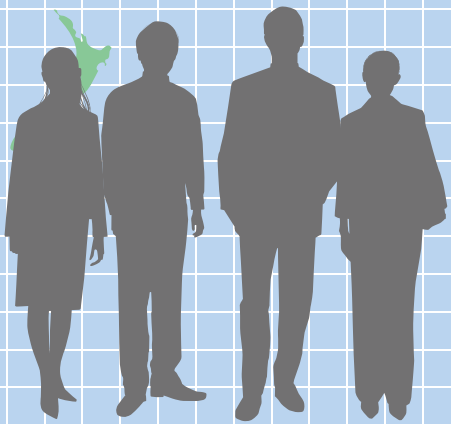
2016年度 JICA横浜
教師海外研修報告書

研修国：ブラジル連邦共和国



独立行政法人国際協力機構
横浜国際センター（JICA横浜）

目　　次

教師海外研修について

◆教師海外研修とは…… 1
◆教師海外研修の流れ…… 2
◆海外研修国の概要…… 3
◆参加者…… 4
◆海外研修日程…… 5
◆参加者の訪問先所感…… 6

実践授業報告 …… 14

小学校（5名）

◆工藤　知子（横浜市立藤が丘小学校） …… 15
「世界から見た自分を知り、世界とのつながりを考えよう～世界とつながる藤小4年生～」
◆冨田　明広　（横浜市立宮谷小学校）…… 24
「菊池博士と一緒にマナティを守ろう」
◆三上　望　（横浜市立永田台小学校）…… 35
「地球と共に生きる私たち～私たちの一歩～」
◆影山　恵巳（鎌倉市立富士塚小学校） …… 45
「世界って？日本って？自分って？」
◆川端下　鮎美（甲斐市立敷島南小学校） …… 56
「見つけよう、ブラジルの“すてき”、世界の“すてき”」

中学校（2名）

◆伊東　悠太　（川崎市立西高津中学校）…… 65
「みんな違って、みんな良い」
◆榊原　千晶（座間市立南中学校） …… 73
「ブラジルを通して日本を知り、日本について考える」

高校（2名）

◆数間　一博　（神奈川県立神奈川総合産業高等学校）…… 80
「私が見たブラジル、多文化共生～！　☆　BRASIL!!」
◆秋山　昭代（神奈川県立城山高等学校 …… 89
「知ってみて　考えてみる　自分と世界のつながりを」

特別支援学校（1名）

◆枡見　瑛莉佳（横浜市立盲特別支援学校） …… 94
「国際理解教育ワークショップ」

※本報告書に記載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICAを代表するものではありません。

教師海外研修とは

1．教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の皆さんを対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

2．研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察（海外研修）と、海外研修の前後に行う国内研修（事前／事後）の2つのプログラムから成っています。国内研修（事前）では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修（事後）では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果（教材）を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

3．応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

※詳しい応募資格は、毎年4月上旬に各学校に配布する募集要項、もしくはJICA横浜ウエブサイトをご参照ください。

4．海外研修期間

2週間程度（8月上旬ころに実施）

5．募集時期

4月初旬～5月初旬

（各学校に募集要項を配布いたします。また、JICA横浜ホームページでも掲載いたします）

6．応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、JICA横浜へ郵送またはご持参ください。

7．お申し込み・お問い合せ

JICA横浜　市民参加協力課　教師海外研修担当

〒231-0001　横浜市中区新港2-3-1

Tel: 045-663-3220（直通）　　Fax: 045-663-3265　　E-mail: yictpp@jica.go.jp

教師海外研修の流れ

国内事前研修

●第1回：2016年6月18日(土)
●第2回：2016年6月25日(土)
●第3回：2016年7月9日(土)
●第4回：2016年7月16日(土)・17日(日)

開発教育教員セミナー（基礎編）に参加し、開発教育ワークショップの体験をしたり、研修国（ブラジル）の基礎知識と健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行いました。

海外研修（ブラジル）

●2016年7月23日(土)
～同年8月5日(金)

国内事後研修

●2016年8月20日(土)

ブラジルで得た体験、写真、資料などを参加者全員で持ち寄り海外研修の振返りと、今後の授業実践について話し合いました。

国内事後研修

●2016年9月～ 2016年12月

参加者各自が工夫を凝らし、学校の現場で授業実践を行いました。

国内事後研修

●2017年1月7日(土)・8日(日)

「開発教育教員セミナー（応用編）」では、レクチャーワークショップ、グループワークなどを通して、開発教育の実践について、学びました。

研修報告会（よこはま国際フォーラム2017）

●2017年2月4日(土)

ブラジルでの気づきや学びを発表し、その後各参加者が実践授業で使った教材等を紹介しながら、授業内容について発表しました。

海外研修国の概要

ブラジル連邦共和国
(Federative Republic of Brazil)

首　　都：ブラジリア
面　　積：851.2万平方キロメートル（日本の22.5倍）
人　　口：2億754万人（2015年：世銀）
民　　族：欧州系（約48%）、アフリカ系（約8%）、アジア系（約1.1%）、混血（約43%）
言　　語：ポルトガル語
宗　　教：カトリック（約60%）、プロテスタント教（約22%）、無宗教（約8%）
（ブラジル地理統計院、2010年）
政　　体：連邦共和制（大統領制）
主要産業：製造業、鉱業（鉄鉱石他）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他）
ＧＮＩ：1兆7,747億米ドル（2015年：世銀）
一人当たりのGDP（名目）：8,538米ドル（2015年：世銀）
経済成長率：0.9%（2012年）、2.3%（2013年）、0.1%（2014円）、-3.8%（2015年）
（実質GDP、ブラジル地理統計院）
通　　貨：レアル
日本の援助実績：（1）有償資金協力　499.96億円（2011年度、E/Nベース）
（2）無償資金協力　0.83億円（2013年度、E/Nベース）
（3）技術協力　　18.18億円（2013年度、JICAベース）
主要援助国（2013年：支出総額、OECD/DAC）：
ノルウェー（678.70百万ドル）
ドイツ（263.02百万ドル）
フランス（122.74百万ドル）
日本（96.03百万ドル）
英国（29.71百万ドル）
在留邦人数：54,014名（2015年10月現在）（長期滞在者：3,441人永住者50,573人）
（日系人総数推定　約190万人）
在日ブラジル人数：約17万6千人（2016年6月在留外国人統計）

（外務省ホームページより）

参 加 者

No.	氏　名	参加形態	勤　　務　　先	教科/学年
1	工藤（くどう）　知子（ともこ）	参加者	横浜市立藤が丘小学校	4学年
2	富田（とみた）　明広（あきひろ）	参加者	横浜市立宮谷小学校	3学年
3	三上（みかみ）　望（のぞみ）	参加者	横浜市立永田台小学校	5学年
4	影山（かげやま）　恵巳（えみ）	参加者	鎌倉市立富士塚小学校	1学年
5	川端下（かわはた）　鮎美（あゆみ）	参加者	甲斐市立敷島南小学校	1学年
6	伊東（いとう）　悠太（ゆうた）	参加者	川崎市立西高津中学校	理科 3学年
7	榊原（さかきばら）　千晶（ちあき）	参加者	座間市立南中学校	保健体育 2学年
8	数間（かずま）　一博（かつひろ）	参加者	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	工業（機械） 3学年
9	秋山（あきやま）　昭代（あきよ）	参加者	神奈川県立城山高等学校	外国語（英語） 2学年
10	枡見瑛莉佳（ますみえりか）	参加者	横浜市立盲特別支援学校	通級センター機能部 小・中学生
11	山田奈央子（やまだなおこ）	同行者	JICA横浜　市民参加協力課	
12	田中（たなか）　浩平（こうへい）	同行者	JICAプラザよこはま	

海外研修日程　　研修国：ブラジル

	日	時		活　動	内　容	宿泊地
1	7月23日	土	午前	羽田空港発		サンパウロ
			午後	サンパウロ着	ホテルへ移動	
2	7月24日	日	午前	安全・事業ブリーフィング（サンパウロ出張所）イビラプエラ公園散策	ブラジルにおける移住支援事業の概要説明、JICAブラジル事務所事業説明等、サンパウロ市民の週末の様子を知る	サンパウロ
			午後	日本移民史料館見学、リベルダージ地区散策	移住の歴史を学ぶ	
3	7月25日	月	午前	太鼓協会事務所（箕輪シニアボランティア訪問）	日系社会ボランティアとの交流	サンパウロ
			午後	Butantan研究所 サンパウロ出張所、元JICA研修員等との懇親会	第三国研修について学ぶ	
4	7月26日	火	午前	サンパウロ→サントス移動 コーヒー博物館訪問	移民の歴史を学ぶ	サントス
			午後	サントス文化会館視察 サッカー博物館訪問	日本人移民の歴史を学ぶ サッカー大国ブラジルの文化について知る	
5	7月27日	水	午前	サントス厚生ホーム訪問・交流 日本移民上陸記念碑および移住100周年モニュメント訪問	日系社会の高齢化に伴う介護施設を訪ね、そこで活動するシニアボランティアと介護福祉について意見交換を行う	サンパウロ
			午後	（円借款）オンダリンパ事業視察 サントス→サンパウロ移動	プロジェクトの視察（環境対策）	
6	7月28日	木	午前	サンパウロ→マナウス移動		マナウス
			午後	（技協）INPA(国立アマゾン研究所)	アマゾンにおけるフィールドミュージアム事業視察	
7	7月29日	金	午前	日本語・ポルトガル語バイリンガル公立学校（Djalma da Cunha Batista校）視察・交流	現地の学校視察。ブラジルにおける初の日本語とポルトガル語のバイリンガル校の教育現場の視察	マナウス
			午後	JICAボランティア（現職参加教員の学校訪問、交流）Josephina de Mello校	授業風景視察、先生、生徒との交流	
8	7月30日	土	午前	西部アマゾン日伯協会との交流	移民の歴史を学ぶ	マナウス
			午後	アマゾン散策（Museu da Amazônia）	アマゾンの現状について知る	
9	7月31日	日	午前	マナウスの市場訪問	ブラジル北西部、アマゾンについて知る。教材収集等	サンパウロ
			午後	マナウス→サンパウロ移動		
10	8月1日	月	午前	（技協）交番訪問、サンパウロ市営市場訪問	ブラジルの治安対策、サンパウロ市民の食生活を知る 教材、資料収集等	サン・ミゲル・アルカンジョ市（ピニャール移住地）
			午後	JICAボランティア（現地参加教員の学校訪問、交流）（マルピアラ学園） ピニャール移住地へ移動	授業風景視察、先生、生徒との交流	
11	8月2日	火	午前	日系入植者との交流、施設等訪問、家庭訪問 日本語学校の授業視察、農場見学等	移住地を訪問し、日系入植者から話を聞いたり、生活の一部を体感する	サンパウロ
			午後	ピニャール移住地からサンパウロへ移動		
12	8月3日	水	午前	（草の根）PIPA自閉症支援事業の視察	草の根技術協力事業、自閉症児支援の視察	サンパウロ
			午後	研修報告会		
13	8月4日	木	午前	サンパウロ発		機内泊
			午後			
14	8月5日	金	午前			
			午後	成田空港着		

参加者の訪問先所感

1日目 7月23日(土)

サンパウロ到着

羽田からドーハを経由して約30時間。ブラジル・サンパウロに降り立った。飛行機での30時間の移動は、予想以上にきつかった。150年前、初めてブラジルに渡った人たちは、船で53日間かけてやってきたそうです。命がけでブラジルにわたったのだと感じました。（榊原）

2日目 7月24日(日)

イビラプエラ公園、リベルダージ地区散策

「ブラジルに日本庭園？」

サンパウロのイビラプエラ公園には、ジョギングやサイクリングをする人々や、家族でのんびりと過ごす人々の姿がありました。誰かと過ごす時間を大切にしているのが伝わってきました。散策に行った日はちょうど聖火リレーが通るということで、大盛り上がりでした。

また、公園の中にある日本庭園に一歩足を踏みいれると、まるで本当に日本にいるかのような静かな空気と空間で、ブラジルで日本を感じることができました。リベルダージ地区も同様に、日本を思わせる建物やお店が多くあり、昔、日本から渡りブラジルの地で生きてきた人々がいるということを実感しました。（三上/川端下）

休日のイビラプエラ公園

日本庭園

日本移民史料館見学

「移民の歴史を学ぶ」

館内ガイドをしてくださった日系2世のTAKEDAさんは、ブラジル到着当日のエピソードを2つ話してくださいました。1つ目は、移民船から上陸するとき、日本人は正装をし、しっかりとした足取りであったこと。53日間の過酷な船旅にも関わらず、疲れもみせず、きちんとした身なりに配慮をしている日本人の姿に、多くの人は驚いたということでした。2つ目は、800人位で一か所で食事をしたときに、米粒一つ床に落ちていなかったこと。日本人が当たり前にやってきたことが、外国の人々にとっては新鮮な驚きだったということでした。これらの話から、私たち日本人が大切にすべきマナーや文化があることに気付かされました。（三上/川端下）

ガイドの方より説明を受けました

3日目 7月25日 (月)

日系社会シニアボランティアとの交流

「受け継ぐ日本文化」

日系社会シニアボランティアとして和太鼓指導をしている、箕輪敏泰さんから、ボランティア参加の動機などを伺いました。箕輪さんは和太鼓の掟12箇条を作り、時間にルーズになってしまったり、練習にふさわしくない格好だったりする子どもたちに、日本で大切にされている姿勢、態度、精神などをしっかり伝えようとしていました。私達も、子どもたちに伝える仕事に就く者として、箕輪さんの妥協しないスタンスに心を動かされました。（冨田/影山）

日系社会シニアボランティアの方と交流しました

コーヒー博物館訪問

「ブラジルといえば？」

ブラジルで有名なものといえば“コーヒー”。コーヒー博物館があるサントスの街は、昔、日本人以外にもヨーロッパの国々からの移民がコーヒー産業に携わり、発展してきました。コーヒー産業が始まった19世紀、コーヒー農園主たちは主にヨーロッパからの移民を雇用して労働力を充足するようにしていました。そのため、現在そのルーツをもつ様々な人種・民族の人たちがブラジルで暮らしていることを知りました。（冨田/影山）

コーヒー博物館の入口

4日目 7月26日 (火)

サントス文化会館視察

「愛される日本文化」

サントスに暮らす日系1世～3世の方々に話を伺いました。サントスが移民の街であるからこそ、自分自身が街の人に受け入れられて生活していると話してくださいました。また、日本語学校に足を運ぶ多くの人が非日系の方で、日本語を通して日本文化を学ぶ人が多くいることを教えていただきました。日本の反対側にある国で日本文化が様々な人に愛され、また日本文化や日本人が認められていることを学びました。（伊東/数間）

鶴の樹

日本移民上陸記念碑、移住100周年モニュメント訪問

「モニュメントから波の音？」

子どもからお年寄りまで色々な人が集まるサントスのエミサリオ・スブマリーノ公園には、「日本移民上陸記念碑」と、芸術家・大竹冨江さん（ブラジルに移住し帰化した）作の「移住100周年モニュメント」があります。このモニュメントは、写真右下の位置に立つと、なんと波の音が聞こえてくるのです！

移住100周年モニュメント

耳を澄ますブラジル人もいました。大竹さんがブラジルを代表する芸術家であること、そして、このモニュメントがブラジル人の身近にあることを感じました。（伊東/数間）

5日目 7月27日 (水)

サントス厚生ホーム訪問

「『ふるさと』を歌いました」

サントス厚生ホームは日系人の助け合いのもとに設立され、日本文化の中で老後を過ごしたいという方が集まった施設です。ホームの中には、日本人形や「春がきた」の歌詞、日本語の本など沢山の日本のものがありました。ここで私達は「島人ぬ宝」などの歌や演奏を行いました。ホームにはちょうど沖縄出身の方もいらっしゃり、笑顔で聞いてくださったのが印象的でした。最後に、ホームの皆さんと一緒に「ふるさと」を歌いました。（冨田/影山）

練習の成果を披露しました

【有償資金協力】オンダリンパ事業視察

「地域住民の理解あってこそ」

人が生きるために欠かせない水。みんなが安全な水を使えるように水質汚濁改善に全力を注ぐオンダリンパ事業。JICAの有償資金協力により始められたプロジェクトで、安全な水が供給されるようになり、新生児の死亡率が大幅に下がりました。事業開始当初、水道料金が上がるのではないかと心配する住民の声があったため、住民への家庭訪問を計3回実施し、事業や工事、水道料金についての説明を行ったそうです。（冨田/影山）

プロジェクトの様子を模型で確認できます

6日目 7月28日 (木)

【技術協力】国立アマゾン研究所視察

「環境問題を考える」

国立アマゾン研究所では、保護されたマナティの野生復帰へのプロジェクトやアマゾンの環境問題について様々な話を聞きました。アマゾンの森林破壊は、大豆畑と畜産業が大きな原因と言われています。世界中で食べられている鶏肉。そのニワトリの飼料として大豆が必要になり、アマゾンの森に巨大な大豆畑が出現しているそうです。このアマゾンの森林破壊は、遠いブラジルの話ではなく、日本で鶏肉を食べている私たちにも大きく関係していることを知りました。マナティの研究をしている大学研究員の菊池さんが言われた「日本の子どもたちに、日本とブラジルがつながっていることを伝えて欲しい。」という言葉が印象的でした。地球規模の環境問題は、何かしら自分たちの生活と関わりがあるはずです。子ども達と環境問題について考えていきたいと思いました。（榊原/秋山）

保護された子どもマナティへの授乳

7日目
7月29日
(金)

日本語・ポルトガル語バイリンガル公立学校視察

「『起立、気をつけ、礼』で始まる学校」

この学校に通っている生徒たちのおよそ80%は、非日系人で、保護者が日系企業で働いていたり、日本のアニメやマンガから日本に興味を持ち、日本語を学びたいと思っている子どもたちです。「起立、気をつけ、礼！」の号令に合わせて、しっかりと礼をする生徒たち。算数では九九を、理科では固体、液体などの単語を、ポルトガル語と日本語の両方で学んでいました。生徒たちが日本語を学ぶことで、日本文化のもつ「尊敬」「礼儀」「整頓」などの精神を身につけてくれることを期待しているそうです。(榊原/秋山)

「日本のイメージ」と「ブラジルのよいところ」を書いてもらいました

授業風景

「ジョゼフィーナ・デ・メーロ校」訪問

「クラスは家族」

この学校では、1年生から9年生までクラス替えがありません。クラスの中で問題が起こっても、クラス替えによって問題を解決するのではなく、子ども同士じっくり時間をかけて解決していきます。「クラスは家族だから」という言葉から先生たちの熱い思いが伝わってきました。生徒たちと行った交流では、けん玉が大好評！シンプルで誰でも楽しめる日本の遊びは、素晴らしいものだと再認識しました。(榊原/秋山)

日本の小学校からメッセージをプレゼント

けん玉が大好評でした

8日目 7月30日 (土)

西部アマゾン日伯協会との交流

「ジャポネース・ガランチード」

アマゾナス州では、1929年から日本人の移住が始まり、1931年にはコーヒーの梱包に必要なジュートの栽培に成功しました。彼らの勤勉かつ真摯な振る舞いは高く評価されていて、「ジャポネース・ガランチード」＝「日本人は信頼できる」という言葉がブラジルにはあるほどです。

この西部アマゾン日伯協会には、日本文化を学びたい非日系のブラジル人学生が611人も通っています。写真の彼は、剣道を習いに通ってきています。姿勢がとてもよく、お辞儀もでき、日本文化を通して礼儀も身につけられているように感じました。（三上/川端下）

剣道を習う青年

アマゾン散策

「アマゾンの神秘」

ネグロ川とソロモン川が合流し、アマゾン川になっていくミーティングポイントに行きました。この二つの川は、生息している生物や川の成分が異なり、手を入れてみると温度も違いました。この川には、絶滅危惧種であるマナティやカワイルカも生息していますが、川の水が濁っているので、どこに生息しているのかわかりにくいそうです。川の汚染や気候変動による川の水位の変化は、生物にとって命に関わる問題です。ブラジルが今後、環境に対してどのような取り組みを行っていくのか興味深いところです。

また、高さ40mから見渡すアマゾンの森は雄大でした。この森は、少しでもたくさんの太陽の光を浴びようと、木が上に上に伸びていき、高い木が生い茂るようになったそうです。（三上/川端下）

ネグロ川とソロモン川の
ミーティングポイント

9日目 7月31日 (日)

マナウスの市場で買い物

「笑顔のサービス満点！」

市場に到着して真っ先に目に入ったのは、枝がついた状態で売られている大量のバナナでした。歩いていくと日本でもおなじみの野菜や果物が売っていましたが、日本では見たこともない食材や、アマゾンでとれた魚など、ブラジルならではのものも沢山ありました。人々も明るく、カメラに向かって微笑んでくれるなど、サービス満点でした。（三上/川端下）

大量のバナナ

マナウスの市場にて

10日目
8月1日
(月)

【技術協力】KOBAN訪問

「治安を守るKOBANの挑戦」

JICAの技術協力プロジェクトによって、ブラジルには日本の交番システムが導入されており、日本式の「KOBAN」も設置されています。20年前のこの地域では、強盗や殺人などの事件が日常茶飯事でした。地域と警察がパートナーシップを組み、安全対策に努めはじめてからは、犯罪が減少したそうです。210箇所で設置された交番の中には、警官が柔道やカポエラの講師となり青少年の非行を防止したり、サッカーW杯の試合のパブリックビューイングをする交番もあり、子どもたちに寄り添いながら、絆を深めていっていました。(伊東/数間)

地域の警官の方に説明いただきました

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躾」5Sの実践

サンパウロ市営市場で買い物

「教員の命「教材集め」」

市場はとても活気に満ち溢れていて、多くの人が値段交渉をしながら買い物をしていました。買い物中、これから学校の授業教材として使えそうなものがいくつかあり、それらを購入しました。(伊東/数間)

活気あふれる市場

「マルピアラ学園」訪問

「教員同士、本音で語り合う」

日系社会ボランティアの山根孝仁さんが活動している「マルピアラ学園」を訪問しました。アルマンド校長より、不登校やいじめ問題の対策、学校概要についての説明を聞きました。先生方との意見交換会では、日本での学校の一日の過ごし方、教育現場でどのような困難にぶつかっているか、将来子どもたちに身に付けてほしい力についてなど、同じ仕事に就く仲間同士、活発な意見が飛び交いました。子どもたちとの交流会では、5年生80名が私たちを出迎えてくれて、楽しいひと時を過ごすことができました。(伊東/数間)

マルピアラ学園の先生方との意見交換会

子どもたちの様子

ピニャール移住地での歓迎会

「大迫力の和太鼓演奏」

日本語モデル校の子どもたちによる和太鼓の演奏で歓迎会が行われました。「飛翔太鼓」というチーム名で、2014年に日本大会で5位になった実力を持っています。体全体にしびれが来るほどの大迫力の演奏でした。子どもたちはみんな、礼儀作法、規律をしっかりと重んじていて、日系社会シニアボランティアとして和太鼓指導をしている、箕輪さんの力は大きいなと感じました。（伊東/数間）

子どもたちと一緒に

和太鼓の演奏で歓迎してくれました

11日目
8月2日
㈫

日本人移住者との交流

「ふるさとへの想い」

ピニャール移住地で生活する方々にじっくり話を伺いました。皆さん、移住当時の状況やその時の思いを一つ一つ丁寧に話してくださいました。自分たちのアイデンティティを「日本人」「ブラジル人」「日系人」と、その短すぎる言葉では表現しきれないように感じました。話を伺った方の中に自分と同郷の方がいて、それを知った時には固く手を取り合いました。ふるさとへの思いに触れた瞬間でした。

移住者の方にお話をお聞きしました

また、ピニャール移住地の剣道場を見学しました。そこには縁側があり、座ってみると不思議と心が落ち着く空間でした。ここがブラジルであるという事を忘れて日本にいるかのようなそんな感覚を体験できました。（工藤/枡見）

剣道場

農場見学

「日本人移住者の貢献」

　びわ作りをしている農場を見学しました。ブラジルに渡った日本人が、様々な野菜や果物を育てて根付かせたという歴史を見ることができました。（工藤/枡見）

農場で作っているびわ

12日目
8月3日
㈬

【草の根技術協力】PIPA自閉症支援事業視察

「日本の技術が活かされる」

　自閉症児療育・就労準備プロジェクトが実施されているPIPA（日系団体が運営する自閉症患者の児童たちの治療を専門としている施設）を視察しました。ブラジル国内の自閉症児者の推定人数は、200万人ともいわれ、未だに薬を用いて行動を抑制するという方法が一般的だそうですが、このPIPAでは日本で行われている方法を取り入れ、自立や社会参加を目指した活動が行われていました。この学校の卒業生がここで仕事をしていて、その落ち着きと正確さにプロジェクトの成果を感じました。（工藤/枡見）

学校の流れを視覚化していました

研修報告会

「無事終了！」

　ブラジリアにあるJICA事務所とテレビ会議システムを使って、報告会を行いました。それぞれの訪問先で学んだこと、また、それらを今後の教育にどう実践するかを一人ずつ報告しました。（工藤/枡見）

報告会の様子

実　践　授　業　報　告

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の下に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童・生徒さんの原文をいかして掲載しております。一部ばらつきがありますが、ご了承ください。

世界から見た自分を知り、世界とのつながりを考えよう
～世界とつながる藤小４年生～

実践場所	神奈川県	横浜市立藤が丘小学校	実践者	工藤　知子
対　象	小学４年生		時間数	８時間
担当教科	小学４年生		実践教科	道徳、総合
ねらい	・世界の現状を知り、興味関心を高める。（世界の現状を知る） ・広い視野をもつことで自分自身の生き方や生活を振り返る機会を与える。（世界とのつながりを実感する） ・世界とのつながりを感じ、地球市民として自分ができることを考えるきっかけを与える。（自分自身を振り返る）			

実践内容

回	プログラム	備　考
1	**自分自身を振り返る①** 「世界がもし100人の村だったら」を読もう。	「世界がもし100人の村だったら」本
2	**世界の現状を知る②** ブラジルってどんな国？ブラジルのイメージを膨らませよう。	
3	**世界とのつながりを実感する①** ブラジルの子どもたちに日本を知ってもらおう！ 日本の有名な食べ物、建物、文化を紹介した手紙をプレゼントしよう。	
4	**世界の現状を知る③** ブラジルってどんな国？ ブラジルの写真をもとにイメージしていたものと比べよう。	パワーポイント ブラジルの写真 ワークシート
5	**世界の現状を知る④** どうしてブラジルに日本の文化が？ 日本とブラジルの歴史からつながりを知ろう。	パワーポイント ブラジルの写真 ワークシート
6	**世界の現状を知る⑤** ブラジルクイズでブラジルの豊かな自然を知ろう。	パワーポイント ブラジルの写真 ワークシート
7	**世界の現状を知る⑥** この模様って何!? アマゾンの熱帯雨林に起きている大変なこととは何かを知ろう。	パワーポイント ブラジルの写真 ワークシート
8	**自分自身を振り返る②** 「世界がもし100人の村だったら」をもう一度読み、世界から見た自分を知ったことで考えよう。	「世界がもし100人の村だったら」本

成　果	オリンピックが開催される記念すべき年にブラジルという国を知り、今まで知らなかったことを知ったり、考えたりするきっかけを与えることができた。
課　題	小学校４年生が考えるには難しい課題もあった。体験していないものをいかに魅力的に、また問題提起することも難しいと感じた。教材や問いを吟味していくことがとても大切であると感じた。
備　考	自分自身が実際に現地に行き、感じることは子どもたちに伝えていく上でとても重要なことであると感じた。こういった実践をより多くの子どもや同僚職員にも積極的に伝えていきたい。

授業実践の詳細

1 時限目 「世界がもし100人の村だったら」を読み、世界とのつながりを考えよう」

1 子どもの活動の流れ

① 自分と世界とのつながりでイメージマップを作る。
② 「世界がもし100人の村だったら」を本で紹介する。
③ 自分自身の生活をふりかえり、感想をワークシートに書く。

この時限のねらい

今まで考えたことのなかった現実を知ることによって、考えたことがなかったことを考える機会をもつ。また、いろいろな世界があることを知り、関心をもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

◇「世界がもし100人の村だったら」を読んだことがある児童はほとんどいなかった。
自分とは違う世界で生きる子どもたちがいることに驚いていた。

◇イメージマップはほとんど書き込まれていなかったが、これからいろいろな世界のことを学ぶことを伝えると子どもたちはとても興味をもっていた。　知らなかったことを知ることは子どもたちにとってはとても興味深いものであることを再認識した。

3 使用した教材

〈教材１〉「世界がもし100人の村だったら」

2 時限目 「ブラジルってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルのイメージを発表しよう。
知っていること、聞いたことがあることからブラジルという国をイメージしてみる。
② ブラジルのイメージをワークシートに書く。

この時限のねらい

ブラジルのイメージを膨らませたり、ブラジルの子どもたちに聞いてほしいことを挙げたりすることで、ブラジルに興味をもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

◇今夏、リオオリンピックが開催されるということでブラジルへの興味関心は高まっているように感じた。

◇ブラジル人は肌の色が黒い、ジャングルがあり動物がたくさんいる、サンバをいつも踊っているという意見が多く見られた。TVで連日報道される治安に対して怖いイメージも多かった。

3 使用した教材

〈教材２〉ワークシート

3 時限目 「ブラジルの子どもたちに日本のことを知ってもらおう」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルの子どもたちに紹介したい日本のよさについて考える。

②「食」「文化」「有名な建造物」に分かれて絵を模造紙に描く。

この時限のねらい

日本のよさについて考えるとともに実際に交流するブラジルの学校に届けることで世界とのつながる喜びや驚きを感じる。

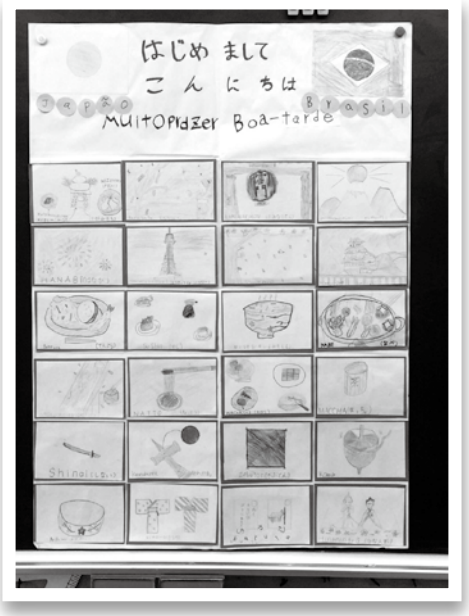
2 子どもの活動の成果・反応

◇日本のよさや有名なものと言われた時に、外国から見た日本のイメージから考える子どもと有名ではないけれど紹介したい日本のよさを考える子どもの姿が見られた。

◇どの子もこれが実際に遠いブラジルの地まで届くことがうれしそうであった。

3 使用した教材

〈教材３〉ワークシート



4 時限目 「ブラジルってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

① ９枚の写真からどの写真がブラジルのものなのかをグループで考える。
② どの写真を選んだのかを発表する。
③ ブラジルの動画を見せる。
④ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

この時限のねらい

ブラジルの実際の様子を知り、イメージしていたこととの相違点や共通点を知る。ブラジルに対する思い込みや先入観があったことに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

◇事前にイメージしていたことをもとに、ブラジルだと思う写真を選んだ。
ジャングルをイメージしていた子どもたちにとって都会の景色には驚いていた。また、日本文化が根付いている風景には、なぜそこに日本文化が根付いているのか疑問にもっているようであった。

◇子どもたちが描いた模造紙の絵がブラジルまで届いたこと、また、ブラジルの子どもたちが興味をもってくれている姿を見てとても嬉しそうであった。

3 使用した教材

〈教材４〉ブラジルで撮った写真
〈教材５〉ブラジルで撮影した動画
〈教材６〉ワークシート

5 時限目 「どうしてブラジルに日本の文化が!?」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルで撮影された写真を見て日本文化が根付いていることに気が付く。
② 笠戸丸に乗って移民としてブラジルに渡った日本人の歴史を知る。
③ 日本から遠く離れたブラジルでなぜ今も日本文化が残っているのかを考える。
④ 授業の感想をワークシートに書く。

この時限のねらい

ブラジルに今も日本文化が根付いていることを知り、日本人が移民としてブラジルへ渡った歴史があることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルに日本文化が今も根付いている様子に驚いていたが、日本人が移民として渡った歴史を知り、納得している様子であった。日系人たちが受け継いできた太鼓の演奏には特に驚き、日本の伝統文化がブラジルに受け入れられている様子は見ていてとてもうれしそうであった。

3 使用した教材

〈教材４〉ブラジルで撮った写真
〈教材５〉ブラジルで撮影した動画
〈教材６〉ワークシート

6 時限目 「ブラジルクイズでブラジルの豊かな自然を知ろう」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルのアマゾン河、アマゾンの森に住む生き物のクイズの答えをグループで考える。

② 答えに合った説明や動画を見てアマゾンの豊かさを感じさせアマゾンへの関心を高める。

③ 授業の感想をワークシートに書く。

この時限のねらい

アマゾンの森や川に住む生き物の写真や動画を見せることでアマゾンに対する興味関を高める。

2 子どもの活動の成果・反応

◇アマゾン河や森に住む生き物は子どもたちにとってイメージしていたブラジルそのものであったためとても関心が高かった。特にアマゾンカワイルカや河のミーティングポイント、カシューの身などは子どもたちにとって驚きが大きかった。ブラジルに行ってみたい！というたくさんの声が聞かれた。

3 使用した教材

〈教材４〉ブラジルで撮った写真

〈教材５〉ブラジルで撮影した動画

〈教材６〉ワークシート

7 時限目 「この模様って何？アマゾンの熱帯雨林に起きている大変なこととは!?」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

私たちの日常が世界とつながっていることを知り、国際理解への意識について関心を高める。

① 前時の活動のふりかえりでアマゾンの森の豊かさを確認する。
② 航空写真の様子からアマゾンの現状を知ることを伝える。
③ グループになって買い物ゲームをすることを伝える。
・「鶏肉」「豚肉」「牛肉」を買いに行く。
・値段の異なるカードから好きなカードを選ぶ。
・選んだカードによって黒板に貼ってあるアマゾンの森カードをめくっていく。
④ アマゾンの森の現状(森林破壊)について考える。
⑤ 今日の学習で自分自身の生活を振り返る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇アマゾンの森が四角く切り取られているなぞの模様に興味をもっているようであった。
◇ワークショップ形式でゲームをしながら学ぶことができたことで子どもたちが意欲的に学習に取り組めた。
◇課題がとても難しく全員が答えを導き出すことはできなかったが、4年生なりに真剣に考える機会を与えることができたことは、関心をもつことへの一歩につながったのではないかと感じた。

3 使用した教材

〈教材４〉ブラジルで撮った写真
〈教材５〉ブラジルで撮影した動画
〈教材６〉ワークシート

8 時限目 「世界がもし100人の村だったら」を読み、世界とのつながりを考えよう

1 子どもの活動の流れ

① イメージマップを完成させる。

② 「世界がもし100人の村だった」をもう一度読み、世界とのつながりや世界で起こる様々な出来事を知ったことで気付いたこと、考えたことを書く。

この時限のねらい

今まで知ることもなかったことを知ったことで自分自身の生活をふりかえり、世界で起こる物事に関心をもたせる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇最初は何にもなかったイメージマップが少しずつ増えていき、自分が知らないところで日本が世界とつながっていたり、自分自身が世界とつながっていたりすることを知ることができたようだった。世界とつながることのおもしろさ、いろいろな世界の国々に行ってみたい、外国の人と関わってみたいという興味も広がったように思える。

3 使用した教材

〈教材４〉ブラジルで撮った写真

〈教材５〉ブラジルで撮影した動画

〈教材６〉ワークシート

全体を通して

1 授業の様子

私がブラジル研修に行こうと思った理由は「知るべき現状があり、それを伝えていくべきだと思ったからである。ブラジルに行き、ブラジルの国、出会った人々、また日本や自分自身とのつながり、多くのことを肌で感じそのすべてを子どもたちに伝えていきたいと思った。しかし、経験していない、体験していないことを子どもたちに伝えていく難しさを感じた。

私が授業で意識したことは、参加型の学習であること、難しいテーマに迫るからこそおもしろいと思えるような授業展開にすることの２つである。

当初、4年生に考えさせるには難解であること、私が見てきたことは物事の一側面であること、それを考えた時に授業の難しさを痛感し、展開を考えることができなかった。しかし、それが一側面であっても知るべき現状であることにはかわりないという仲間からの助言もあり、授業を行うことにした。

今年度の授業で子どもたちにどんな変化があるかはわからない。しかし、今回の学びが子どもたちの人生の中で思い出したり関心をもったりする一つのきっかけになればとても喜ばしいことだと感じる。また、ブラジルへ渡った模造紙が同じ年の子どもたちに届いた瞬間の、世界とつながり合った喜びを覚えていてくれたら世界にあるたくさんの問題も解決する希望になるのではないかと考える。

〈写真１〉日本の有名な食べ物や文化を中心にブラジルに送る絵を描きあげました。

〈写真２〉フォトランゲージでどの写真がブラジルで撮られた写真なのかをグループで考えました。

〈写真３〉お買い物ゲームではどの肉を買ったらよいかを子どもたちなりに悩んでいます。

〈写真４〉アマゾンの風景がだんだんと荒れ地に変わっていく、そんな様子に子どもたちは驚いていました。

2　参考文献・資料

1）池田香代子＋マガジンハウス編「世界がもし 100 人の村だったら」2008 マガジンハウス

菊池博士と一緒にマナティを守ろう

実践場所	神奈川県	横浜市立宮谷小学校	実践者	冨田　明広
対　象	小学３年生	時間数	７時間	
担当教科	小学３年生	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	わたしたちの生活が熱帯雨林の伐採と関係していることが分かり、「博士」との手紙や質問などのやりとりを通して、地球環境の問題について調べたり伝えたりしながら、関心を高める。			

実践内容

回	プログラム	備　考
1・2	【アマゾンとはどんなところだろう】 ・アマゾン川遊覧の光景や貴重な生物から、ブラジルにはアマゾン川や熱帯雨林などの貴重な自然があることを知る。 〈動画資料の視聴、感想交流〉	
3	【マナティーとはどんな生き物なのだろう】 ・マナティは貴重な生物で、優しい性格であることを知る。菊池博士への質問を考える。 〈マナティに関する本の読み聞かせ〉	「マナティーはやさしいともだち」（福田幸広　ポプラ社）等
4・5	【熱帯雨林はどうして少なくなっているのだろう】 ・菊池博士の手紙から、私達の生活が熱帯雨林を犠牲にしていることを知り、本や資料を使って調べる。 〈菊池博士からの手紙について意見交流〉	京都大学野生動物研究センター 菊池夢美氏
6	【「わたしたちの生活が熱帯雨林を犠牲にしている」とはどういうことだろう】 ・どのような食べ物が熱帯雨林の伐採と関係をしているのか、アクティビティを通して考える。 〈ブラジルの大豆の行方紙芝居・食べ物カード〉	
7	【わたしたちは何をしていったらよいのだろう】 ・菊池博士の続きの手紙を読むことで、「知ること」「伝えること」をわたしたちがどのようにできるかを考える。 〈菊池博士からの手紙の続きについて意見交流〉 →さらに、必要なことを調べて、学習発表会で全校児童に伝える活動へ発展	

成　果	子どもたちがアクティビティの枠を越えて、探究的に学習を行うことができた。ご家庭の協力を得て、本やインターネット使ってパーム油について調べたり、お家の方に本を取り寄せてもらったりと、自分から調べ方や調べる内容を広げていった。
課　題	「熱帯雨林を伐採している人たちはひどい」という感情的な理解の子もいて、経済格差や貧困の問題までは掘り下げられず、他者の視点から問題を見つめる学習が必要である。高学年で高い視点から、熱帯雨林の問題についてもう一度学習ができるとよい。
備　考	この実践とは別に、サントス日本語学校の中間祥恵先生や子どもたちとの交流も行っている。日本のおせち料理について調べてポスターや、実際のおせち料理の写真などを送った。ブラジルの料理について、やりとりを重ねる予定である。

授業実践の詳細

1・2 時限目 「アマゾンとはどんなところだろう」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

アマゾン川や熱帯雨林に関する動画を視聴し、感想を交流することによって、アマゾンには貴重な生物が生息する環境や日本では見られない広大な自然について知り、これからの学習への意欲を高める。

① アマゾン川の位置や流域、気候などを知る…

子どもたちにとって、アマゾンは動物についてのテレビ番組の情報で断片的に知っている子どもが多く、興味をもたせやすかった。地図上で、マナウスの位置確認し、アマゾン川の広大さを、日本の大きさと比べることで感じられるようにし、驚きの声が上がった。飛行機を降りて外に出てみると、太陽の光が日本の光よりも強く感じ、何となく光が多く感じられたことや、外を歩いていて暑くてクラクラしたことなど、エピソードを踏まえながら、熱帯の気候であることを伝えていった。

② アマゾン川遊覧と熱帯雨林の散策の動画から、豊かな自然環境について知る。…

対岸がはるか遠くに見え、海原のようにどこまでも広がるアマゾン川の動画を見せた。日本の川と比較させ、その大きさを感じられるようにした。また、白黒の2色の川の水の色が混じり合わずに、そのまま白黒の水の境が生じたまま流れていく様子の動画を見せ、自然の不思議さを考えられるようにした。

熱帯雨林は、展望台に登ったときの動画や、熱帯雨林の散策の動画などを視聴した。日本の植生と違うところを子どもたちは発見し、不思議な形の樹や見たことのない植物などを楽しんだ。

〈教材１〉

③ アマゾン周辺に生息する生物について知る。…

子どもたちに紹介した動物の動画は、ヘビ、大グモ、ピラルク、市場のたくさんの魚、ピンクイルカ、マナティーで、どれも子どもたちの興味を引きつけるのに十分な資料になった。

ヘビや大グモは、教師自身が手に乗せて親しむ様子を見せ、子どもたちは興奮した様子だった。そして、市場の青果や魚は、日本の魚とはすがたも大きさも全く違うもので、アマゾンがもたらす恵を感じられた。豊かなアマゾンのおかげで、そこに暮らす人達も恩恵を受けていることを知ることができた。さらに、ピラルクの鱗は実物を見せ、その大きさに圧倒していた。

マナティーについては、動画ではミルクを飲む鼻しか見えず、全容が捉えられない。また、国立アマゾン研究所（INPA）で保護されているという情報から、分からないことが多く、学習の展開からも、マナティーについては更に深く掘り下げていこうと促した。

〈教材２〉〈教材３〉

2　子どもの活動の成果・反応

【写真１　アマゾンってどんなところ掲示資料】

◇遠く離れた国ブラジルへの興味を引き出した

　オリンピックなどで話題のブラジルとはいえ、子どもたちにとっては遠く離れた国で、物理的にも感覚的にも距離感がある。大好きな自然や動物をテーマにすることで、子どもたちの学習意欲を高め、これからの学習を楽しみにする意欲を喚起することができた。この日から、子どもたちはスケジュールに「ブラジル」と書かれることを楽しみに待つようになった。

◇アマゾン川の豊かで貴重な自然を感じた

　これからの学習の前提となる、豊かで貴重な自然をもつアマゾンという情報を子どもたち全員が持つことによって、学習の土台を作ることができた。特に、市場の活気に溶け込むブラジルの人の賑わいを見ることによって、生物だけでなく、アマゾン川に人の生活があることを意識させることができた。日本に暮らすわたしたちと同じように、美味しいものを食べたいとする人が多く暮らしているということは、多文化理解を進める上で大切なことである。

◇熱帯雨林やマナティーとの出合いから、探求の入り口を作った

　今回、大切にしたいことは、子どもたちが探究をするということである。魅力的なテーマから、自分たちの学習を作り上げる学級風土を作り上げる。そのために、熱帯雨林やマナティーの研究者である菊池夢美氏との出会いを演出することが大切になる。この時間で、入り口を作ることができた。

3　使用した教材

〈教材１〉アマゾンの大自然を伝える動画

・熱帯雨林の動画（Museu da Amazônia (MUSA)にて撮影）

　アマゾン川（アマゾン川遊覧時に撮影

【写真　02アマゾン川】

【写真　03熱帯雨林散策】

〈教材２〉アマゾンに住む生物の動画

・マナティー（国立アマゾン研究所にて撮影）

ヘビ、大グモ（ブタンタン研究所にて撮影）

【写真　04クモ】

ピラルク､市場のたくさんの魚（マナウス市場にて撮影）

【写真　05市場】

ピンクイルカ（アマゾン川遊覧時に撮影）

【写真　06ピンクイルカ】

〈教材３〉ピラルクのうろこの実物

【写真　07ピラルクのうろこ】

3 時限目 「マナティーとはどんな生き物なのだろう」

この時限のねらい

アマゾン川に住む貴重な動物マナティーの絵本やマナティーを守る菊池博士との出会いを通じて、熱帯雨林やマナティーについてさらに調べる意欲をもつ。

1 子どもの活動の流れ

① 「マナティーはやさしいともだち」と「マナティー」の読み聞かせを行い、マナティーはどんな生き物だと思ったかに話し合う…

２冊の本とも、マナティーの愛らしい表情を捉えた絵本である。いずれもフロリダマナティーであるが、子どもたちにとっては、マナティーがとても興味深い生き物であることが分かったようだ。

〈教材３〉

② マナティーの研究者である菊池博士と交流することができることを知り、菊池博士に質問を送るために話し合う。…

教師海外研修でお会いできた京都大学野生動物研究センター菊池夢美氏（子どもたちにも親しみがわくように、「菊池博士」と呼んだ。）に質問を送ることができると伝えた。菊池氏はマナティーを守るためにマナウスと日本を往復している博士であると紹介した。すると、子どもたちからはたくさんの質問が寄せられた。その中で学習が深まりそうなものを選出し、菊池博士に送った。

〈教材４〉

2 子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちが出した質問の中から選出した質問リスト

- マナティーは、どれぐらい減ってしまったのですか？
- マナティーはどんな性格ですか？
- マナティーは友達同士ではなすことができるのですか？
- マナティーの他に絶滅しそうな生き物はいるのですか？
- マナティーは菊池博士の顔を覚えるのですか？
- 絶滅しそうなマナティーにしてあげられることはありますか？

◇菊池博士は女性だった

子どもたちは最初、菊池博士を男性であると勘違いしていた。博士という職業のイメージが男性と結びつくようだ。世界で活躍する女性の姿を印象づけられ、子どもたちにとっても貴重な出会いになった。

3 使用した教材

〈教材３〉マナティーを知るために用意した絵本

・福田幸広著　『マナティーはやさしいともだち』2002年、ポプラ社

【写真　08マナティーはやさしいともだち】

・J.Y.クストー著　山脇恭訳　『マナティー』1994年、岩崎書店

【写真　09マナティー】

〈教材４〉菊池博士の写真

【写真　10菊池博士】

4・5 時限目　「熱帯雨林はどうして少なくなっているのだろう」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい

菊池博士からの手紙から熱帯雨林が減少していることを知り、熱帯雨林や熱帯雨林減少の理由について調べたことを話し合うことを通じて、失われていく自然環境について話し合う。

① 菊池博士の手紙を読み、熱帯雨林が減少し、人間の手によってマナティーの数が激減してしまったことを知る…

菊池博士からの手紙が届き、子どもたちは沸き立った。菊池博士は、子どもたちの質問にひとつひとつ丁寧に、３年生にもわかりやすい言葉で回答をくださった。

そこには、人間の手によって、マナティーの乱獲があり、マナティーは絶滅の危険性があることが記されていた。子どもたちは、どうして絵本で読んだ優しいマナティーを利己的な目的で乱獲してしまったのか、質問が上がった。子どもたちは、一度アマゾンに住む人が乱獲をしたと誤解していたが、多くは商業目的で外部から来た人によって行われていたことを解説した。

〈教材５〉

② 菊池博士の最後の問いについて、自分の考えをもつ…

教師と菊池博士とのやり取り中で、「熱帯雨林が減少していること」と、「わたしたちの生活と熱帯雨林の減少はつながっている」ということを盛り込んでほしいと事前に菊池博士にお願いをしてあった。菊池博士はこちらの学習のねらいを意図的に手紙の中に盛り込んでくださり、子どもたちの探究心に火をつけることになった。

菊池博士は手紙の最後に、子どもたちに下記のように投げ掛けていただいた。

〈教材「菊池博士からの手紙」の一部より抜粋〉

> みなさんは、アマゾンマナティーのくらすアマゾン熱帯雨林をはじめ、世界の熱帯雨林が減っていることを知っていますか？
> そして、熱帯雨林が減っていることと、私たちの生活が実は関係していること、気づいているでしょうか？
> 熱帯雨林からとおくはなれた日本にくらすわたしたちも、気づかないうちに熱帯雨林を犠牲にしているのです。

子どもたちは、４時限目の直後は、この意味を捉えきれていなかった。（子どもたちの活動の成果・反応を参照）「遠くの日本に住んでいるわたしたちが熱帯雨林を犠牲にしているわけがない」と信じられない様子の子どもが多かった。そこで、まずは、一つ目の問いである熱帯雨林の減少について調べようと投げ掛けた。

③　熱帯雨林の減少について調べる…

菊池博士の手紙や問いかけのおかげで、多くの子どもが主体的に調べてきた。図書室に行っていつもは開かない百科事典に挑戦する姿や、JICAのホームページから熱帯雨林の減少について調べてきた子どももいた。また、中には、建設業で木材を扱っている保護者の方が、子どもの一所懸命な姿を応援しようと、職場から熱帯雨林の木材についての資料を用意し、その子は嬉しそうに学校にその資料を持ってきて画用紙にまとめていた。子どもたちの熱意が、新しい学習に挑戦する勇気を生み、周りの大人を巻き込む力になっていった。

④　自分で調べてきたことを報告し、思ったことを話し合う…

まず話し合いの土台を作るために、熱帯雨林が焼かれている写真や飛行機から見えた地肌が露出している熱帯雨林の写真を示し、どの子も熱帯雨林が減少している具体的なイメージを持ちやすくした。子どもたちは、表情が暗くなっていく。子どもたちのイメージに、「焼く」というイメージはなかったようで、そこに驚く子が多かった。子どもたちの中には、「熱帯雨林は樹や草だけでなく、動物や虫などの生き物も住んでいるのに、焼かれるなんてかわいそう」といった感想を発表する子がいた。

その後に、子どもたちのは調べてきたことを発表した。「世界の熱帯雨林の半分以上はブラジルにある。」「熱帯雨林の広さは半分になってしまった。」と、いろいろな意見が出た。中でも子どもたちの心に残った発表は、「２秒でテニスコート１面の熱帯雨林が今もなくなっている」ということである。教師も過去のデータから１日に学校の敷地８つ分がなくなっていると算出していたが、それよりも子どもたちにとってとても早いスピードで熱帯雨林が減少していることを知らされる情報となった。

〈教材７〉

2　子どもの活動の成果・反応

【写真12　熱帯雨林はどれぐらい減っているの掲示資料】

◇４時間目の振り返りより

どうしてですか？なぜわたしたちが熱帯雨林を犠牲にしているのですか？川や海を汚くしているんですか？水を大事に扱っていないからですか？それはブラジルで起きていることですか？世界ではどうなっているのですか？わたしはそこが気になります。

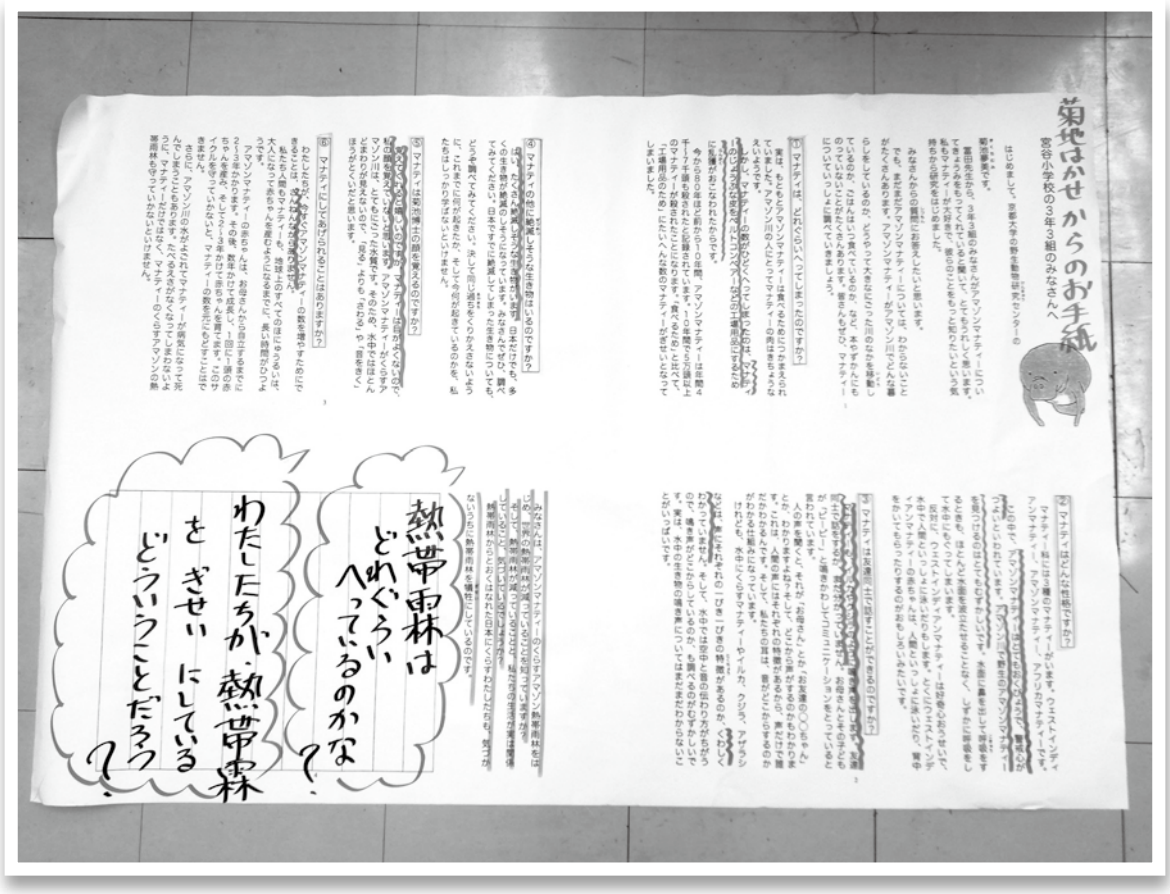
◇５時間目の振り返りより

熱帯雨林が減っていることは、とても嫌だと思いました。なぜかというと、燃やしていると気づかないうちに、サルなど木の近くに住む動物を殺してしまっているからです。すごくひどすぎると思いました。嫌になりました。

3　使用した教材

〈教材５〉菊池博士からの手紙を拡大した掲示資料

【写真11　菊池博士からの手紙】



〈教材６〉飛行機から撮影した伐採された熱帯雨林の写真

【写真13　熱帯雨林焼失】

6 時限目　「“わたしたちの生活が熱帯雨林を犠牲にしている”とはどういうことだろう」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい

わたしたちの身の回りにある食材が熱帯雨林の伐採に関係していることを知り、自分に身近な熱帯雨林の問題について考えをもつ。

① 「わたしたちの生活と熱帯雨林のつながり」について、調べてきたことを発表する。…

菊池博士の二つ目の問いである「日本にくらすわたしたちも、気づかないうちに熱帯雨林を犠牲にしている」について、子どもたちは前時に引き続きたくさんのことを調べてきた。それがしっかりクラスのみんなに届くように、画用紙資料を作るように事前に指導してあった。子どもたちは主に調べてこられたものは「放牧で育った牛肉によって」・「パーム油の精製によって（インドネシア・マレーシア)」であった。

② 食材カードから熱帯雨林と関係のあると思うカードを選ぶ…

たくさんの種類の食材カードを班に配り、そこから熱帯雨林に関係すると思うカードを選び出す活動を行った。子どもたちから放牧で育った牛肉についての発表があったことで、牛肉に関係するカードを選ぶ班が多かった。班によっては、全て関係しているのでは、と疑う意見も出ていた。

〈教材７〉

③ 紙芝居「すがたをかえるブラジルの大豆」を聞き、食材カードを選び直す…

教師の資料である紙芝居「すがたをかえるブラジルの大豆」の展開は以下のようなものであった。

１，熱帯雨林が大豆畑になり、収穫された大豆は日本に輸出される。
２，日本の精油工場にて食用油となり、大豆粕ができる。
３，大豆粕は家畜の餌として加工され、牛・豚・鶏に与えられる。
４，牛・豚・鶏は食肉なったり、加工されて牛乳やハム、卵になったりする。

〈教材８〉

④ 教材や活動から考えたことを話し合う…子どもたちは、毎日飲んでいる牛乳やたまごにまで、熱帯雨林と関係がある食材になっていることに驚いていた。つまり、食材カードは全て、熱帯雨林と関係があるということになった。子どもたちは、「何を食べたらいいのだろう」「わたしたちはどうしたらいいのだろう」と困惑の表情を浮かべていた。そこで、菊池博士の手紙には続きがあることを伝える。

2　子どもの活動の成果・反応

◇６時間目の振り返りより

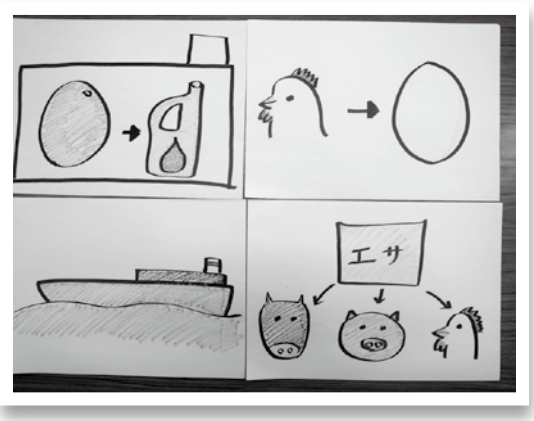
わたしは気づかないうちに熱帯雨林を犠牲にしていると初めて聞いたときは、よく分かりませんでした。でも、今はとってもよくわかります。だけど、わたしは、なんかいけないことをしている気分にもなります。

3　使用した教材

〈教材７〉食材カード

【写真　15食材カード】

〈教材８〉紙芝居「すがたをかえるブラジルの大豆」



【写真　16紙芝居】

7　時限目　「わたしたちは何をしていったらよいのだろう」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい

博士の手紙の続きにある「知ること」「伝えること」について話し合い、私たちがどんなことを思い、行動していったらよいかについて考える。

①　菊池博士の手紙の続きを読む…

子どもたちは、手紙の続きを読むことを心待ちにしていた。教師が意図的に手紙を分割したので、子どもからは「先生ずるい！」の声が上がった。

②　手紙の言葉の「知ること」「伝えること」について話し合う。…

子どもたちは、最初ポスターを作って啓発したらどうかと考えを出していたが、次第に学習発表会で全校に伝えるというアイデアに収まっていった。けれども、子どもたちはまだ知っていることが足りないという気持ちがある。絶滅危惧種についても、新しく知ったパーム油についてもまだよく分かっていないことが多いという意見が上がった。そして、学習発表会に向けて、さらに調べて伝えていく活動に展開していった。

2　子どもの活動の成果・反応

◇７時間目の振り返りより

ぼくは今日の授業について、作られているものをありがたいと思いながら食べたいです。熱帯雨林で作られているのなら、ありがとうと思いながら作ったり食べたりします。熱帯雨林の生物みんなに感謝したいです。

3　使用した教材

〈教材９〉菊池博士からの手紙の続き

〈教材「菊池博士からの手紙の続き」の一部より抜粋〉

さらに、「自分はマナティーの数が減っていることについてどう思ったか」「マナティーを守るためにどうしたらいいと思うか、どうしたいか」「熱帯雨林がへっていることについてどう思ったか」など、自分が考えたことを友達や家族、先生とお話ししてみてください。こうして「知ること・伝えること」がなによりも大切です。どうぞたくさん調べて、学んで、いろいろな人に伝えていってください。

全体を通して

1　授業の様子

熱帯雨林を斬り倒して成り立っている先進国の豊かな生活から、抜け出したくても抜け出せない、どうしようもできない子どもたちと私の葛藤があった。日本の学校で平和に学び豊かに暮らす私たちの影には、貧困に喘ぐ世界の子どもたちがいる。子どもには、知りたくなかった事実に直面することで動揺する子もいたが、時間と共にそれは薄らいでいった。けれど、それでよいと思う。いつかもう少し大人になり、自分で生き方を選択できるようになったとき、今回の学習が脳裏を過り、小さくても確実な変化を起こせる大人へと成長してほしい。

わたしたちの手作りの発表会の中に、小さな博士が登場し、動物たちを守る博士へと成長するという内容が生まれた。この頼もしい子どもたちから、私自身も勇気を貰ったように感じる。小さくても確実な変化を踏めるようにしたい。

〈写真１〉６時限目の授業の様子

【写真　17授業の様子】

2　参考文献・資料

1）福田幸広著　『マナティーはやさしいともだち』2002年、ポプラ社
2）J.Y.クストー著　山脇恭訳　『マナティー』1994年、岩崎書店
3）横塚眞己人著　『ゾウの森とポテトチップス』2012年、そうえん社

地球と共に生きる私たち〜私たちの一歩〜

実践場所	神奈川県	横浜市立永田台小学校	実践者	三上　望
対　象	小学５年生	時間数	24 時間	
担当教科	小学５年生	実践教科	総合	
ねらい	・SDGs（持続可能な開発目標）を通して、地球規模の課題と世界のつながりを考え、自分に何ができるのか考え、行動する心情を育てる。 ・ブラジルと日本の深いつながりを知り、ブラジルに親しみをもつ。			

実践内容

回	プログラム	備　考
1	**【SDGs とは】** ・何のために SDGs ができたのだろう	ハチドリのひとしずく
2	**【いま、私にできること】** ・読み聞かせを通して、小さな一歩に気付。	いま、私にできること（辻信一）
3	**【同じときを生きる私たち】** ・今、この瞬間にも苦しい現状の中でも必死に生きていることを感じ、考える	ぼくがラーメンたべてるとき（長谷川義文）
4	**【ブラジルのこんなことが知りたい】** ・ブラジルのイメージやブラジルの知りたいことを出し合う	
5	**【ブラジルの小学生と友達になろう】** ・ブラジルの小学生に日本文化を紹介する手紙を書く	
6	**【ブラジルに行ってみたらこんな国でした】** ・ブラジル視察で印象に残ったことを紹介	パワーポイント
7	**【ブラジルの水事情】** ・ブラジルが抱える水問題と SDGs のつながりを考える	ワークショップ形式
8	**【どちらがブラジル？日本？】** ・ブラジルと日本の写真を分類することを通して、疑問を出し合う	フォトランゲージ
9	**【横浜移住資料館見学・もし世界が 100 人の村だったら】** ・資料館・ブラジル派遣の展示を見学。 ・ワークショップを通して、世界のつながりを体感する	校外学習
10	**【ブラジルでの一歩】** ・ブラジルに渡った日本人の村の開発	パワーポイント
11･12	**【SDGs カードゲーム】** ・SDGs カードゲームを通して、私たちの行動が世界にどのような影響を与えるのかを体感する	ゲストティーチャー 一般社団法人イマココラボ
13-19	**【SDGs の中から個人テーマを決め、調べ学習】**	
20	**【エコプロ 2016 で一人ひとりが発表】**	
21	**【地球の食卓】** ・様々な国の食卓写真を通して、多様性に気付く	エコプロ 2016 に出展 フォトランゲージ
22･23	**【ブラジルの食卓】** ・フェジョアーダを作り、ブラジルの食文化を体験する	調理実習 ゲストティーチャー
24	**【私たちの一歩】** ・私たちの生活を振り返り、SDGs の目標に対して自分たちのできる一歩を踏み出し、かがやき祭で発信する。	ブラジルにつながりのあり保護者

成　果	地球規模の課題について、関心の高まりを感じた。日常のニュースや新聞に興味をもち、探求し続ける児童が増えた。自分の思いをもちながら、人に発信する力が身についた。また、遠く感じていたブラジルと日本のつながりに初めて気づき、ブラジルへの見方が変容した。
課　題	こちら側（教員）の見てきたことを伝えたいと思うあまり、情報過多な授業が多かったように思う。もっと子どもたちに考えてほしい問いを大切にし、余白のある授業展開をしていきたい。
備　考	まだまだ伝えきれていない情報や共に考え続けたい内容がある。１年間だけではなく、継続していきたい。また、他学年に出前授業をしたり、教職員研修をしたり、多くの人に伝えていきたい。

授業実践の詳細

（主要な時限を記載しています）

3 時限目 「同じときを生きるわたしたち」

1 子どもの活動の流れ

① インドの干ばつについてのニュースを知る
② SDGsのどの項目に関連があるのか出し合う。
③ 「ぼくがラーメンたべてるとき」の読み聞かせ
④ 感想を交流する（ブッククラブ）
⑤ SDGsで考えていきたい問いを出し合う

この時限のねらい

今、自分たちが生きているこの時を様々な環境で生きている子どもたちがいることを感じ、地球が抱えている課題はすべてがつながっていることに気づくことができる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇インドの干ばつのニュースから、気候変動を解決するためには、SDGsの17この目標のすべてがつながっていることに気づいた児童が多かった。

◇絵本から、様々な国の環境で暮らしている子どもたちがいることを知り、「なぜ命を落とすことになったのか」、「水をなぜくんでいるのか」ということに疑問をもち、世界の現状を調べたいという意欲につながっていた。

◇私たちの今と世界の今は、意識をしないと中々感じ考えることが難しい。しかし、絵本を通して、今この時でも様々な環境で必死に生きている子どももいることを感じることができた。

3 使用した教材

〈教材１〉「ぼくがラーメンたべてるとき」（長谷川義文）出版：教育画劇

読み聞かせをした絵本

〈教材２〉国際連合広報センター　2030アジェンダ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

4 時限目　「みんなのブラジルのイメージは？こんなこと知りたいな」

1　子どもの活動の流れ

① ブラジルのイメージをグループで出し合う
② 全体で共有する
③ ブラジルの知りたいことをグループで出し合う
④ 全体で共有する

この時限のねらい

一人ひとりがブラジルのイメージを共有し、最初に自分のもっていたブラジルのイメージをもつことで、今後の授業を通しての変容を比較する。また、知りたいことを出し合うことで関心を高める。

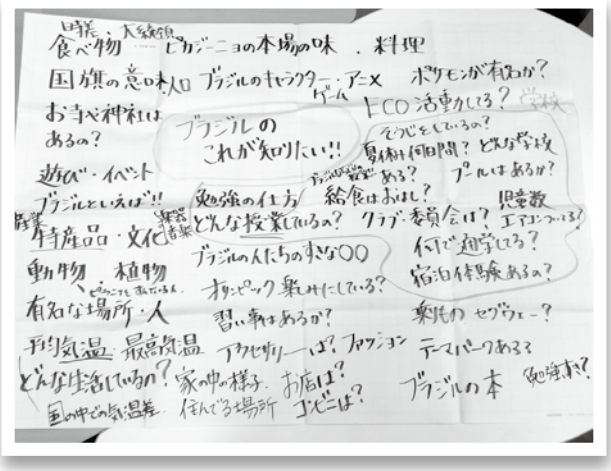
2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルといえば、「サッカー、コーヒー、アマゾン・・・・他には、えーっと・・・」というように、ブラジルという国の位置を知っていたり、大体のイメージをもっていたりはするが、深く知る機会はなかったようだ。オリンピックが開催されることもあり、メディアからの情報をそのまま受け取り、悪い印象をもっている児童も中にはいた。それだけ、私たちは日々のメディアの情報に左右されている現状があり、子どもは特にそのまま信じ、自分の知識となっていることを感じた。そこで、私たちが実際に自分の目で見て、感じたことを伝えることの重要性も同時に感じた。

◇知りたいことの中で多かった内容は、学校についてのことであった。自分たちの学校生活とブラジルの学校生活がどのように異なるのか、関心が高かった。また、ブラジルの環境について関心は高く、自分たちが日々取り組んでいるECO活動（ゴミの分別やペットボトルキャップ回収など）がブラジルでも行われているのか、というECOと世界のつながりに目をむけている児童もいた。

3　使用した教材

〈教材３〉世界地図・ブラジルの国旗
〈教材４〉ブラジルで知りたいことをまとめた模造紙



7 時限目 「あなたならどうする?ブラジルの水事情」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

ブラジルの水事情を知り、支援をするには、そこで生活をする様々な人々の思いに寄り添うことが大切であることを感じてほしい。

① ブラジルの水事情について知る

② ワークショップをする

・ある国際協力団体に所属している日本人が下水道設備をブラジルのある村に作りたい。

・支援する人、村の子ども、大人、工事業者、の４役に分かれ意見を出し合う。

③ 下水道設備をつくることに自分ならば、賛成か反対か考える。→グループで共有

④ 下水道設備をつくる活動がよりよくするためには、どうしたらよいのかを考える→グループで共有

2 子どもの活動の成果・反応

◇下水道設備を村につくることに賛成、やや賛成の児童が多かった。主な理由としては、「下水道設備をつくることで、子どもの命を救うことができるから」「病気を防ぐことで、命も助かり、治療費がかからなくてすむ」であった。

◇やや反対の児童の主な理由としては、「工事が大切であることはわかるが、下水道代金があがると、日々の生活が苦しくなってしまうのは困る」「下水道代金を下げる取組はないのか」があげられた。下水道設備の大切さを知りながらも、そこで暮らす人々のことを考えると、本当にやるべきなのか、と葛藤している様子であった。

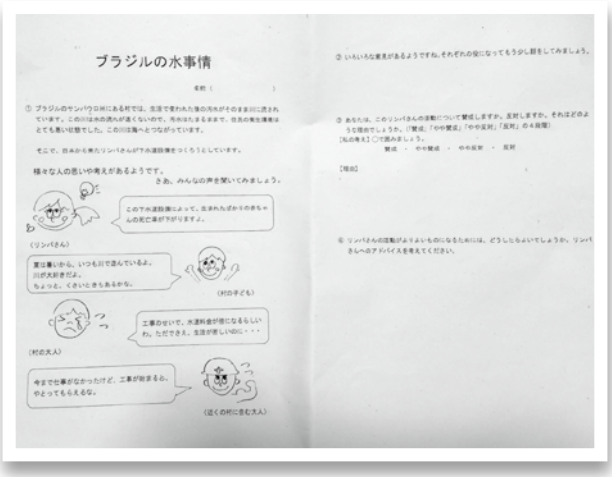
◇下水道設備の活動がよりよくなるためのアイディアとして、「何度も村の人と話をすること」があげられた。これは、JICAのオンダリンパ事業でも実践されていることであり、児童の気付きから内容を補足することができた。

◇「日本にいても支援することができるのではないか」、と国際協力に関心をもった児童も見受けられた。

3 使用した教材

〈教材５〉オンダリンパ事業視察でいただいた資料

〈教材６〉ワークシート


ブラジルの水事情

〈教材７〉情報カード

8 時限目 「どちらが日本？ブラジル？」

1 子どもの活動の流れ

① 14枚の写真からブラジルと日本に分ける
② その理由をグループで共有する
③ ブラジルの写真から疑問に思ったこと、気づいたことを円たくん（円形ホワイトボード）に書き込み、グループで共有する
④ 海外移住資料館で調べたいことを書き出す

この時限のねらい

ブラジルは日本とつながりの深い国なのではないか、ということに気づき、なぜ日本文化がブラジルに今も根付いているのか関心を高める。

2 子どもの活動の成果・反応

◇14枚中、1枚だけが日本の写真であることに驚いていた。
◇「床にごみを捨てないでください」のポスターは、普通ならば、ポルトガル語が先に書かれていて、後から日本語に訳されて書かれているはずなのに、なぜ、日本語が先に書かれているのだろう。と不思議に思っていた。
◇日本とブラジルに何か深いつながりがあるのかもしれない。しかし、なぜ遠いブラジルと日本がつながっているのだろうと疑問だらけであった。

3 使用した教材

〈教材８〉現地で撮影した写真

9 時限目 「JICA横浜に行って、世界の国と日本のつながりを調べよう」

1 子どもの活動の流れ

① JICA横浜に行く
② 「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを体験する
③ 海外移住資料館、ブラジル教師海外研修レポート展を見学する
④ 自分の知りたいことを総合ノートにメモする

この時限のねらい

JICA横浜を訪れ、日本と世界のつながりを感じ、考える。海外移住資料館の見学を通して、日系移民の存在と日系移民の貢献について知る。

2 子どもの活動の成果・反応

◇「世界がもし100人の村だったら」のワークショップでは、世界の人口を大陸ごとに児童数の比率に合わせて分かれた。「アジアにこんなにも多くの人が住んでいるのか」「女性と男性の比率の割合の違いを初めて知った」「世界には女性というだけで、権利がうばわれてしまう国もあることを知った」など、新たな価値観に出会ったようである。

◇「ブラジル展示のクイズが楽しかった」、「ブラジルクイズにほとんど正解できた」など、ブラジル展示を通してブラジルの文化に慣れ親しむことができた。

◇海外移住資料館では、「もっと時間がほしかった」という児童が多くいた。休日をつかって、友達同士で声をかけ合い、保護者と共に再訪問した児童もいた。JICA横浜の施設の存在を初めて知った児童も多かったので、訪れたことは意義があったように思う。

3 使用した教材

〈教材９〉「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら」出版：開発教育協会
〈教材10〉教師海外研修レポート展

JICA横浜で行われた教師海外研修レポート展をメモする児童

10 時限目　「ブラジルでの一歩」

1　子どもの活動の流れ

① これまでの学習のふりかえりをする
- ブラジルには大自然があること
- ブラジルには日本の食物があること
- 移住した日本人がいること

② ここに村をつくろう→グループワーク
- SDGsの中から、まずやるべきことは何かを考える
- 大事なのは、まず水？電気？道路？

③ ピニャール移住地で暮らす人々の思いを知る

④ 教育の大切さについて考える

この時限のねらい

ブラジルに初めて渡った日本人の村の開発を通して、何もないところで生きるためには、何が必要なのかを考え、私たちの暮らしについて改めて考える。また、あきらめない気持ち、挑戦し続ける心情を育てる。

2　子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちは「水は生きるために必要」、「命のために水はかかせないよね」とＳＤＧｓの１７の目標の中から、水の大切さを選ぶ児童が多かった。しかし、「水だけでは、人々の生活はできない」「エネルギーや産業も大切なのではないか」、という意見も出た。

◇電気や道路の整備よりも前に、子どもたちへの教育を始めたことに驚きをもった児童が多かった。自分たちが当たり前のように毎日通っている学校が、新しいブラジルという土地で何もないところから村をつくる日本人にとっては、いかに大切であったかを知り、改めて教育の大切さについて関心をもった児童もいた。

◇今回ピニャール移住地でインタビューをした山下さん、徳久さんご夫妻が話している動画から「気持ちが伝わってきた」「山下さんの苦労があるからこそ、おいしいポンカンが今でもブラジルにあるんだな」とブラジルで暮らす日本人に思いを寄せている児童がいた。

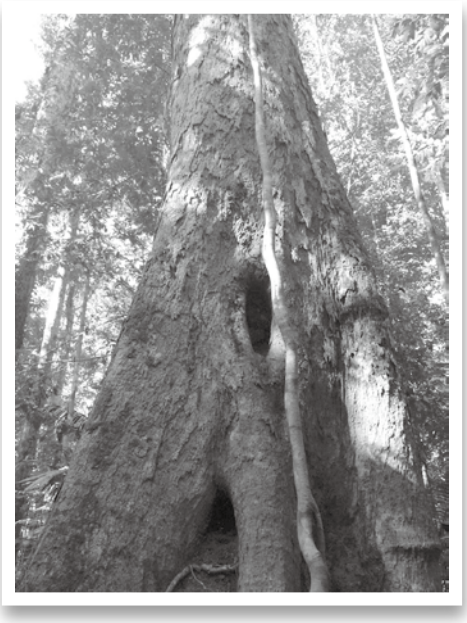
3　使用した教材

〈教材11〉国際連合広報センター　2030アジェンダ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

〈教材12〉ピニャール移住地での山下さん、徳久さんご夫妻のインタビュー動画

山下さん、徳久さんご夫妻

〈教材13〉ブラジルでの市場の写真、アマゾンの大木の写真



22 時限目　「ブラジルの食卓〜フェジョアーダ作りにチャレンジ〜」

1　子どもの活動の流れ

① ブラジルにつながりのある保護者をゲストティーチャーとして招き、ブラジルの食文化について知る
② フェジョアーダ、ケールの炒め物、オレンジの皮むきに挑戦する
③ フェジョアーダを煮込んでいる間に、ブラジルのクリスマスについての話を聞く
④ みんなでブラジル料理を味わう

この時限のねらい

フェジョアーダづくりを通して、ブラジルの食卓を知り、ブラジルの食卓と日本の食卓の違いを感じる。また、ブラジルの食文化に慣れ親しむことで、ブラジルをもっと好きになることができる。

2　子どもの活動の成果・反応

◇フェジョアーダの見た目は、日本の「おしるこ」に近く、黒豆が煮込んであると、甘いイメージをもっている児童が多かった。しかし、ブラジルでは塩辛く味付けをし、ごはんと一緒に食べる。見た目と味の違いに、驚いている児童も多かったが、みんな「おいしい」と言いながら、完食をしていた。

◇野菜が苦手な児童も、ケールを食べていた。初めてのブラジル料理の体験と自分で作ったということが後押ししたのかもしれない。このような調理実習を経験することで、よりブラジルの文化を身近に感じることができるのではないだろうか。

◇今回は、保護者の方の協力もあり、実現することができた。後日、家でもレシピを調べて、フェジョアーダを作ってみた、というご家庭もあった。子どもたちを通して、ブラジル文化が家庭の中でも広まった瞬間でもあった。

3　使用した教材

〈教材14〉フェジョアーダの盛り付け見本

〈教材15〉ブラジルの食材専門店から仕入れた材料

全体を通して

1　授業の様子

教員が実際に見て、感じ、考えたことを伝えることの大切さを痛感した。現代は情報社会であり、インターネットで検索をすれば、すぐにほしい情報を手に入れることができる。しかし、それは側面であり、実際に暮らす人々の生活や実態が分かるものではない。私の今回の視察も限られた一部分であったかもしれないが、私が現地で出会った人々の話を中心に授業を展開した。そうすることで、子どもたちは現実の社会を知り、世界と自分のつながりをより強く感じることができたのではないかと思う。今回の授業展開では、すべてグループ活動を中心に行った。一つの題材から、自分たちの思いを語り合い、伝え合うことで、多様な考えがあることに気付き、また他者の考えから自分の考えを広げる児童もいた。クラスの身近な存在である友達との関わり合いを通して、人とのつながりが大切であることに気付き、そしてよりよい世界をつくっていく上でも、人とのつながりが大切であることに気づく児童であってほしいと願う。

〈写真1〉ブラジルの写真から疑問に思ったことを出し合う子どもたち

〈写真2〉世界の大陸に分かれる子どもたち

〈写真３〉自分の考えを書きながら意見を交流する子どもたち

〈写真４〉フェジョアーダを教えてもらいながら作る子どもたち

2 参考文献・資料

1）「ハチドリのひとしずく　いま、私にできること」（辻信一）出版：光文社

2）「ぼくがラーメンたべてるとき」（長谷川義文）出版：教育画劇

3）国際連合広報センター　2030アジェンダ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

4）海外移住資料館　配布「PASSPORT」

5）「ワークショップ版　世界がもし１００人の村だったら」出版：開発教育協会

6）「世界がもし100人の村だったら」（池田香代子）出版：マガジンハウス

7）「写真で学ぼう　地球の食卓　学習プラン10」出版：開発教育協会

世界って？日本って？自分って？

実践場所	神奈川県	鎌倉市立富士塚小学校	実践者	影山　恵巳
対　象	小学１年生	時間数	12 時間	
担当教科	小学１年生	実践教科	学活・生活・道徳	
ねらい	・ブラジル文化等に触れ自分たちとの共通点や違い、つながりを見つけることで異文化への興味関心を高める。 ・ブラジルの人々の生活や考えを知ることを通して、自分たちの生活を振り返り、何が大切か考える。 ・自分と異なる文化を持つ人に出会った時、自分にどんなことができるのか考える。			

実践内容

回	プログラム	備　考
1･2	**【ブラジルってどんなところ？】** ①ブラジルについて知っていることを発表する。 ②ブラジルの場所や、有名なことなどを知る。 ③事前アンケート「自分の夢、宝物」を書く。 ④ブラジルの子どもたちへのメッセージカードに何を書くか話し合い、決める。	**【使用教材】** パワーポイント
3	**【ブラジルの子どもたちに伝えよう】** 言葉が違うブラジルの子どもたちに伝えるためにはどう伝えるとよいか考え、ブラジルの子どもたちに伝わりやすいように表現する。	
4	**【ブラジルってこんなところ！】** ブラジルを紹介するクイズに答えたり、教師が見てきたブラジルのスライドを見たり、ブラジルのものを触ったりして、楽しみながらブラジルについて知る。	・パワーポイント ・ブラジルの紙幣、コイン、絵本、器、ブレスレットなど
5･6	**【ブラジルを楽しもう！】** ブラジルのあいさつや遊び , 楽器を体験し、他国の文化を楽しむ。	・楽器
7	**【こんなところにブラジル？】** クイズ形式でブラジルとつながりのあるものを考え、日本とブラジルのつながりへの興味関心を高める。	・パワーポイント （国際理解教育実践集 P.11 のブラジル版）
8	**【ブラジルの子どもたち】** ブラジルの子どもの学校生活について知る。日本語を学ぶブラジルの子どもの話や、ブラジルの子が描いた夢の絵を通して、日本のよいところに目を向ける。	・パワーポイント
9	**【ブラジルなの？日本なの？どっちなの？】** ① 15 枚の写真をブラジルでとった写真と日本でとった写真にわける。 ②どれがブラジルの写真であるかを知り、驚いた写真とその理由を発表する。	・現地の写真
10	**【日系人って？】** 日系人についてや、日系人が大切にしていることを知り、日系人のよいところについて考える。	・パワーポイント ・紙芝居（手作り）
11	**【日本のよいところ、自分が大切にしていきたいこと】** ①日系人の文化、考え方を通して、日本のよいところについて考える。 ②お家の人と話してきた家で大切にしている考えを発表する。 ③これから自分が大切にしていきたいことを考え、発表する。	
12	**【自分にできることは？～ブラジルから転校生がやってきた～】** ①在日ブラジル人の子どもが日本で困っていることを考える。 ②文字が読めない疑似体験をする。 ③異文化の国の転校生がやってきた時、自分にできることを考える。	・紙芝居（手作り） ・ポルトガル語のプリント ・絵本

成　果	授業を行った後、子どもたちは休み時間もブラジルの本を読んだり、楽器で演奏会を行ったり、世界に関する本を読んだりする姿があり、異文化に対する興味関心が高まったように思う。また、ブラジルを知ることを通して改めて日本の文化や自分が大切にしていきたいことにも目を向けられた。
課　題	子どもたちが実感や問題意識を持てるように教材を考えるのが困難だった。今回はブラジルがメインだったが、世界には様々な国があり、その分、面白さも問題もある。これからも継続して、学年の実態に合った授業を行っていきたい。
備　考	海外研修時、ブラジルや空港や飛行機の中で、折り紙やけん玉は子どもたちに大人気で、改めて日本のあそびの魅力を感じる機会だった。そのことをクラスの子どもたちに伝え、その後おりがみやけん玉を楽しむ時間を継続的にとるようにしている。 また、常設のブラジル展を校内で行ったり、他学年にも授業を行わせてもらい、様々な学年に伝える機会を設けた。

授業実践の詳細

（主要な時限を記載しています）

1・2 時限目 「ブラジルってどんなところ?」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルについて知っていることを発表する。
② ブラジルの場所や、有名なことなどを知る。
③ ブラジルについて知りたいことを発表する。
④ 事前アンケート「自分の夢、宝物」を書く。
⑤ ブラジルの子どもたちへのメッセージカードに何を書くか話し合い、決める。

この時限のねらい

知りたいことを出し合い、興味関心を高める。ブラジルの子どもたちに伝えたいメッセージを考え、つながろうとする。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルについて子どもたちが知っていることは、サッカーやサンバなどで、ブラジルと聞いてもピンとこない子どももいた。ブラジルの位置を伝えると気球の反対側ということでびっくりしていた。先生がブラジルに行ったら、何を見たり、聞いたりしてきほしいか聞くと、食べ物や学校のこと、あそびのことなど沢山出てきて、ブラジルに興味津々な様子だった。

◇ブラジルの子どもたちに伝えたいことは、自分たちの身近なことを伝えたいということで、日本の食べ物、あそび、キャラクターに決まった。

3 使用した教材

〈教材１〉地球儀（透明色のビーチボール型で地球の反対側が見えやすいもの）

〈教材２〉ブラジルの文化、町の写真のパワーポイント

3 時限目　「ブラジルの子どもたちに伝えよう」

1　子どもの活動の流れ

① 日本の食べ物、あそび、キャラクターにはどんなものがあるか出し合う。
② 言葉が違うブラジルの子どもたちに伝えるためにはどう伝えるとよいか考える。
③ ブラジルの子どもたちへのカードを書き、模造紙にまとめる。

この時限のねらい

言葉の異なる国の人へ自分の伝えたいことを伝える方法を考える。相手のことを考えながら、メッセージを伝えようとする。

2　子どもの活動の成果・反応

◇日本の食べ物としてはすし、おにぎりなどいかにも日本らしいものをあげる子もいたが、カレーなどの洋食もなじみのある食べ物としてあげる子がいた。

◇ブラジルの子どもたちに伝わりやすいように、わかりやすく絵を描こうという意見と、日本語は読めないかもしれないけど、書いたらおもしろいんじゃない?という意見が出て、多くの子どもが絵に日本語を添えて書いていた。中には、ポルトガル語やローマ字でどう書くのか調べて言葉を添えた子どもや、折り紙は本物があった方がいいと、おり鶴を模造紙に貼っている子どももいた。地球の反対側のブラジルに自分たちが書いたものが届くとわくわくしながら、相手のことを考える姿があった。

写真〈子どもたちが作った日本の紹介カード〉

写真　〈出来上がった模造紙〉

4 時限目　「ブラジルってこんなところ!」

1　子どもの活動の流れ

① 担任からブラジルの様子や、知りたかったことを聞いたり、ブラジルのものに触れたりする。
② ブラジルを紹介するクイズに答えたり、教師が見てきたブラジルのスライドを見たりして、ブラジルについて知る。
③ ブラジルについて思ったことや、ブラジルのよいと思ったことについて発表する。

この時限のねらい

異なる文化を持つ国に対し、興味を持ち、良いと思うことを見つけることができる。他国を知る楽しさを知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルの様子をスライドを見せながら伝えると「日本と一緒だ!」「え～全然違う」と日本と同じところ、違うところをそれぞれ新鮮に感じていた。子どもたちが作ったカードを教師が渡している写真を見ると、とても喜んで「ほんとに、届いた!」と驚いている子もいた。

◇子どもたちが感じたブラジルのよいところ

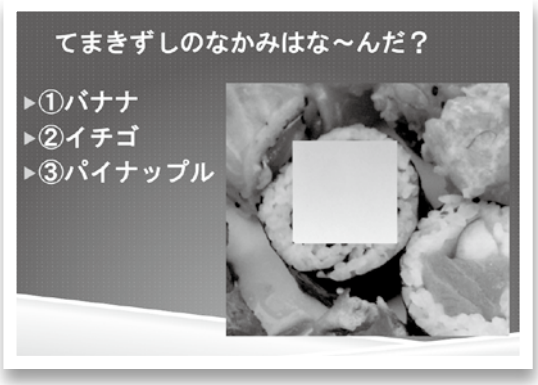
・みんな笑顔で写真に写っていた。優しそう。
・話しかけてくれたり、写真を撮っていいよっていってくれる。
・学校で日本語を習っている子どもがいてすごい。
・フルーツがいろんな種類があって、多いからすごい。
・市場でおいしそうな果物がいっぱい売っているところ。
・お出迎えしてくれるところ。
・人と仲よくできるところ。なぜかというと、先生とはやくなかよくできたから。
・色々な人が一緒にいるところ。

◇子どもたちは興味津々でスライドを見たり、クイズに答えたりしていた。スライドを見たり、教師の話を聞いたりする中で、ブラジルのよいところを見つけていた。教師の体験の話や、写真から見つけたよいところなので、偏りは多少あるかと思うが、まずは他国の良いところに目を向けるというねらいは達成されたように思う。

3　使用した教材

〈教材３〉ブラジルの写真のパワーポイント

〈教材４〉ブラジルクイズのパワーポイント



〈教材5〉ブラジルの本やネックレス、器、楽器等

5・6 時限目　「ブラジルを楽しもう!」

1　子どもの活動の流れ

① 世界にはどんな「こんにちは」があるか発表する。
② ブラジルのあいさつの言葉や体を使ったあいさつ「ベージョ」を体験する。
③ ブラジルの楽器の演奏を体験する。
④ サンバの曲に合わせて即興の演奏会を行う。

この時限のねらい

体験を通して、ブラジルの文化を楽しむ。楽しい体験を通し、より身近に他国を感じてほしい。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルで使用されているポルトガル語のあいさつや、ありがとうを子どもたちに伝え、ゲームを交えながら繰り返して口にしていった。ポルトガル語では「ありがとう」が男の人は「オブリガード」、女の人は「オブリガーダ」と発音する。男女で撥音が異なることが新鮮だったようだ。授業後も「ありがとう」をいう場面で「オブリガード」と言って笑っている子どももいた。

◇体を使ったあいさつ「ベージョ」はほっぺとほっぺを合わせるので、照れている子どもが多かったが、ベージョをするとはにかみながらも笑顔になる姿もあった。日本のあいさつとの違いに驚いたようだ。

◇ノリノリのサンバの曲やブラジルの楽器の演奏は楽しかったようで、休み時間も演奏会を開いている姿が見られた。

3　使用した教材

〈教材6〉ブラジルであいさつをした時の写真や動画

8　時限目　「ブラジルの子どもたち」

1　子どもの活動の流れ

① スライドを見て、ブラジルの子どもたちの学校や学校生活について知り、日本と違うところ、同じところを見つける。

② 日本語を学んでいるブラジルの子どもが沢山いることや、その理由を知る。

③ ブラジルの子どもたちの夢が描かれたカードを見て、気がついたことを発表する。

この時限のねらい

日本がどう思われているのか、ブラジルの子の話や絵を通して知ることで、日本のよいところに気付く。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルの小学生がどのような学校生活を送っているのかは、子どもたちの関心の高いものだった。演劇の授業があることや、学校が午前と午後の2部制であること、掃除がないことなど、驚いたことは沢山あったようだ。

◇ブラジルの子どもたちがなぜ日本語を学んでいるのかをスライドを見せながら、伝えた。「日本語を学ぶ

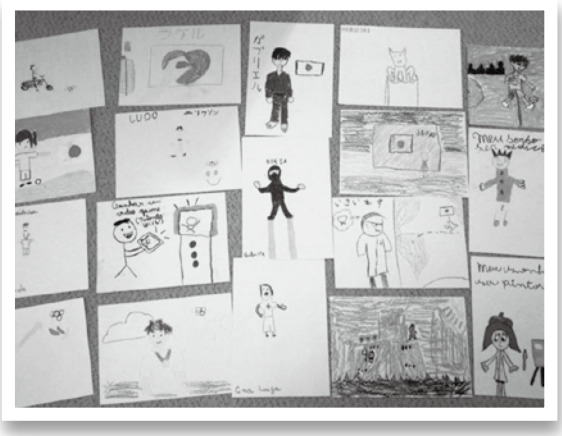
ことで、日本の心を身につけたい」「人に感謝したり、時間を守ったり、そういう気持ちを大切にしたいから、日本語を学ぶ」「日本の企業に入りたいから」そう言っているブラジルの子どもたちや先生の話は、子どもたちにとって新鮮で、自分たちが普段行っている掃除なども、素晴らしいものだと捉えられていることに驚いたようだ。いつも当たり前にやっていたり、言われたりすることが、他の国からしてみれば日本の素晴らしいところであると知る機会になった。

◇ブラジルの子どもたちが描いた夢の絵のカードには、日本のことが多く描かれていた。柔道で強くなって日本に行きたい子、医者になって日本に行きたい子、忍者になりたい子など。それを見て子どもたちは嬉しそうだった。また、日本のよいところをブラジルの子どもたちが多く感じ、行きたい国としていることもわかったようだ。

3 使用した教材

〈教材7〉ブラジルの子どもたちの様子のパワーポイント

〈教材8〉ブラジルの子どもたちが夢を描いたカードの写真



9 時限目 「ブラジルなの？日本なの？どっちなの？」

1 子どもの活動の流れ

① グループごとに、15枚の写真をブラジルでとった写真と日本でとった写真にグループ分けする。

② どれがブラジルの写真であるかを知り、驚いた写真とその理由を発表する。

この時限のねらい

ブラジルに日本のものがたくさんあることに気付き、日本とブラジルのつながりについて興味関心を高める。

2 子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちは「これは桜の木だから日本だよ」「これ、日本にもあるよ」と写真をよく見て、グループで楽しそうに話ながらグループ分けをしていた。

◇ブラジルでとった写真か日本でとった写真か答えを伝えると、子どもたちはとても驚いていた。ブラジルでは日本の文化が根付いていることを伝えた。その訳は、次の時間のお楽しみにしたが、日本とブラジルのつながりについての興味関心は十分に高まっていたように思う。

3 使用した教材

〈教材9〉現地の写真（15枚×6グループ）

〈教材10〉現地の写真のスライド　パワーポイント

10時限目 「日系人って？」

1 子どもの活動の流れ

① 日本人と同じような顔の日系人の写真を見て、何人か考える。
② 紙芝居を聞いて、日系人についてや、日系人が大切にしている文化や考え方について知る。
③ 日系人のよいところについて考える。

この時限のねらい

日系人の歴史、大切にしている文化や、考え方を知り、日系人のよさを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇日系人について、一年生に伝えるのは難しいかなと思っていた。しかし、手作りの紙芝居を用いることで伝えやすくなったかと思う。紙芝居を通して、子どもたちは今までの授業で知った日本語を学ぶブラジルの子どもたちのことや、なぜブラジルにたくさん日本のものがあるのか、納得がいったようだ。

◇子どもたちから出た日系人のよいところ

・いつもいつも働いてもくじけなかったし、戦争中もがんばったからすごい。
・みんなで仲よく力を合わせたところ。
・お金が稼げると聞いていたのに、行くと違っていた。でも、がんばったからえらい。
・日本のたいせつなことをずっと大切にした。
・仕事をがんばって、ブラジルの人に信じてもらえた。

◇今回、日本とブラジルの大きなつながりの一つである日系人について子どもたちは知った。そして、日系人のがんばりが今のブラジルでの日本への信頼につながっていることに目を向けられたように思う。

3 使用した教材

〈教材11〉紙芝居（手作り）

〈教材12〉日系人と担任が一緒に映っている写真

11 時限目 「日本のよいところ、自分が大切にしていきたいこと」

1 子どもの活動の流れ

① 日系人の文化、考え方を通して、日本のよいところについて考える。
② お家の人と話してきた家で大切にしている考えを発表する。
③ これから自分が大切にしていきたいことを考え、発表する。

この時限のねらい

日系人の文化、考え方を通して、日本人のよいところについて考え、自分がこれから大切にしていきたいことを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇日系人の子どもの太鼓グループで大切にされている礼儀や、時間を守ること、相手のことを考えることなどの話を伝えると、「それは当たり前でしょ」「いつもやってるよ」という声も聞かれた。その自分たちと同じくらいの歳の子もいる太鼓グループの演奏の動画を見せると、子どもたちはあまりの迫力にびっくりしていた。その演奏が、自分たちが当たり前だと思っている礼儀や、時間をしっかり守ること、相手のことを考えることをしっかり行っている上に成り立っているものだと伝えると、その大切さに目を向けられたようだった。

◇今回の授業では、当たり前すぎてあまり意識していないかもしれない大切なことを、家庭でも子どもたちとお家の方で改めて考えてほしく、事前に話し合ってもらった。出てきた意見としては、ありがとう、ごめんなさいをきちんと伝える、人のことを考える、約束を守る、季節を楽しむ、家族で食事をとるなど、日系人と共通するものがたくさんあった。そこから、日本人が大切にしていることに気付く機会となった。

◇自分が当たり前だと思っていたことの価値や大切さを、ブラジルの人や、日系人、お家の人との話を通して、改めて感じられたのではないかと思う。

3 使用した教材

〈教材13〉ブラジルの太鼓グループの写真や動画

12時限目 「自分にできることは？〜ブラジルから転校生がやってきた〜」

1 子どもの活動の流れ

① 紙芝居の読み聞かせを聞いて、在日ブラジル人の子どもが日本で困っていることを考える。
② 文字が読めない疑似体験をする。
③ 異文化の転校生がクラスにやってきた時、自分にできることを考える。
④ 在日日系ブラジル人青年の絵本の読み聞かせを聞く。

この時限のねらい

在日ブラジル人の子どもの困っていることを考え、自分に何ができるか考える。在日ブラジル人だけでなく、人それぞれ抱えている思いがあることに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

◇在日ブラジル人の子ども(カリナ)が困りそうなこととしては、言葉がわからない、掃除を仕方がわからない、ご飯が合わない、友だちができるか心配等があがった。クラスに転校してきた子がいたので、自分とカリナを重ねて考えている様子も見られた。

◇言葉がわからない体験をしてみようと、ポルトガル語のプリントを子どもたちに配布し、ポルトガル語で「これは宿題です。明日までです。」と伝えた。子どもたちは混乱し、言葉がわからないと宿題一つとっても、大変だということを体験できたようだった。

◇カリナがクラスにやってきたら、自分に何ができるかを考えた。在日ブラジル人の困っていることを遠くの国の人の困っていることとしてではなく、身近なこととして、具体的に自分が何ができるかを考えていたように思う。何かを教えるという意見が多かったが、一緒にいる、あいさつをする、あそぶ、友だちになる、いっしょに帰る等、何かを教えるでもなくそばにいる、一緒になにかをするという意見もあった。また、私がブラジルに行った時、言葉は通じなくても笑顔であいさつをしてくれたことがとても嬉しかったことを伝えた。笑顔や、一緒にいてくれることや、自分に何ができるかなと考えてくれることが嬉しいというのは、在日ブラジル人、日本人に関係なく同じだということを感じられた時間になった。

3　使用した教材

〈教材14〉紙芝居（手作り）

〈教材16〉在日日系ブラジル人青年の絵本「ぼく」
http://hana.bi/2014/08/nikkei-brasil-boku/

〈教材15〉ポルトガル語のプリント

全体を通して

1　授業の様子

他国を知ることは、より日本や自分について知ることであり、自分の視野が広がり深くなり、生き方が少しずつ変化することだと思う。しかし、それを授業で行う際に、手法やテーマ等難しさを感じた。そこで、一年生の授業で大切にしたのは、体験を取り入れることと、身近なことと結びつけ「つなぐ」ことだ。12時限目の授業では、遠い国のブラジルの子が自分のクラスに転校してきたらどうするかをみんなで考えた。隣の子の気持ちを考えるように、協力するように、遠い国の人たちとも関わっていけたらと思う。そして、創っていきたい世界への鍵は、クラスの中や日々の中にあることに気付いていきたい。今回、体験したこと、聞いたこと、考えたことが、子どもたちがこれから色々な人たちと関わるときの手助けとなれば嬉しい。

〈写真１〉ブラジルの遊び体験

〈写真２〉ブラジルなの？日本なの？どっちなの？黒板

〈写真３〉ブラジルなの？日本なの？どっちなの？

〈写真４〉日系人について

2　参考文献・資料

１）JICA教材作成実行委員会「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」（独立行政法人国際協力機構）

２）猪木亜弥子ファニー「旅の指差し会話帳23　ブラジル」（株式会社情報センター出版局）

３）カリナのブラジルと日本（JICAよこはま　海外移住資料館貸し出し紙芝居）

４）海を渡った日本人（JICAよこはま　海外移住資料館貸し出し紙芝居）

「見つけよう、ブラジルの“すてき”、世界の“すてき”」

実践場所	山梨県	甲斐市立敷島南小学校	実践者	川端下　鮎美
対　象	小学１年生	時間数	12 時間	
担当教科	小学１年生	実践教科	生活科・道徳・学活・図工	
ねらい	・ブラジルと日本の違う部分と、煮ている部分とを知り、世界と自分たちが繋がっているという感覚を養う。 ・ブラジルを切り口に、世界には自分たちと異なる多様な文化をもつ国があることを知り、その違いの良さや楽しさを感じる感性を育む。			

実践内容	回	プログラム	備　考
	1	**【どんな人たちの，どんな国？】** 人や街並みなどの、国によっての違いがあることを知る。	
	2	**【ブラジルってどんなところ？】** DVD から、ブラジルのについて具体的なイメージをもつ。	フジテレビ番組「世界行ってみたらホントはこんなトコだった！ブラジル編」
	3	**【ブラジルの子達へ伝えよう】** ブラジルの子ども達へ送るプレゼントを作る。	複数学年活動
	4	**【ブラジルに行ってきたよ！】** 教師がブラジルへ体験してきたことの報告を聞く。	現地写真
	5	**【これはなんでしょう？】** ３択クイズで、ブラジルについて楽しく学ぶ	現地写真 ワークシート
	6	**【ブラジルパズル】** ブラジルの暮らしについてパズルゲームを通して日本との違いを学ぶ。	絵（表ブラジル裏日本） →パズルピースに
	7	**【ブラジルはどーれだ？】** フォトランゲージから、日本との共通点を見つける。	現地写真
	8	**【ブラジルへわたった日本人】** 日系人についての紙芝居を聞き、ブラジルと日本との関係について理解する。	紙芝居
	9	**【おスシの世界旅行】** ブラジルで出会った「スシ」を切り口に、「スシ」を通して、文化のつながりや、混ざり合いの楽しさを感じる。	
	10～12	**【すてき発見隊】** 興味のある国について調べ、発見した「すてき」を発表し合う。	

成　果	小学１年生ということもあり、ブラジルという国があるんだ、という所から始まったが、担任がブラジルへ行くというところから興味をもち、ブラジルについての授業をする度に、大喜びをするようになっていった。授業が終わると、自然と、他にはどんなものがあるのか尋ねてきたり、次は「こんなことが知りたい」と伝えてきたりする児童増えていった。また、色々な国に興味がある児童が多く、「つぎはこの国について知りたい！」と、興味関心を広げていく姿が見られた。
課　題	日本もはっきりと持てていない段階の児童なので、ブラジルと日本の違いを感じさせるのには、どうしたらいいのか、悩んだ。そこで設定したのが５，６の授業だったが、児童の能力に合っていなかったと反省する点があったので、各発達段階に応じた、教材で考えさせることの大切さを感じた。また、活動の時間が長引いてしまうことがあったので、伝えたいことを落とし込む「まとめ」の時間の確保や、伝え方を気をつけていきたい。
備　考	10 － 12 の「すてき発見隊」は３学期に継続実施中。

授業実践の詳細

1 時限目　「どんな人たちの，どんな国?」

1　子どもの活動の流れ

① オリンピックの話をし、2020年の日本を含めた歴代５カ国を知る。(国旗のイラストを見て、国を当てる。)

② 五カ国がどこにあるかを考え、世界地図に国旗シールを貼る。(少し時間をおいてから、地球儀や、名前入りの世界地図を提示)

③ それぞれの国の風景・子ども達の写真を分類する。

この時限のねらい

・世界には様々な国があること、自分たちの国から近い国・遠い国があることを知る。
・国によって、街並みや暮らしている人々に違いがあることを知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇毎日１枚、国の写真とともに、世界のあいさつを紹介するカードを作り、教室に提示するようにしてきたこともあり、子ども達のなかに、世界についての興味関心が強くあった。そんな子達だが、隣国である中国の場所であっても、当てられたのは一班のみだった。しかし、ヒントを見ながら、真剣に国の場所を探す中で、「すぐ隣だ！」「こんなに遠いの！？」と驚きつつ、楽しみながら活動をしていた。この授業以降、教室に地球儀と世界地図を提示しておくようにすると、その日のカードを見た後、「この国ってどこだろう？」「○○のお隣さんだ。」と良いながら確認する姿が見られるようになった。

◇風景の分類は、テレビで見たことがあるようで、正解が多かったが、各国の子ども達の写真の分類は悩み、「中国の子はたぶん金髪ではないよね。」「この子たち、日本人に似ている！」と、意見を交わしながら、日本を含めた国同士の違いを楽しみながら学ぶ様子が見られた。

3　使用した教材

〈教材１〉日本・ブラジル・イギリス・中国・ギリシャの国旗、風景、子ども（小学生）の写真（黒板掲示用と児童の活動用）

〈教材２〉国名の入っていない世界地図、写真分類用のワークシート

〈教材３〉ヒント用の地球儀、国名入りの世界地図

2 時限目 「ブラジルってどんなところ?」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルについて取り上げたDVDを見る。
② DVDを見て驚いたことや、素敵だと思ったこと、気になったことをワークシートに付箋で貼っていく。

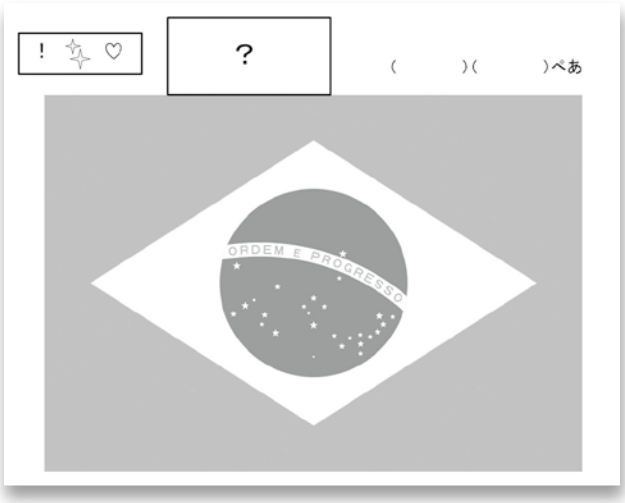
この時限のねらい
・ブラジルについての具体的なイメージをもつ。
・もっと知りたいことなど、興味をもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

◇具体的にブラジルがどんな国なのか、視覚を通して知ることができたため、ブラジルへの興味関心がより強まった。
◇カーニバル、食べ物、サッカー、街並みといった、ブラジルの特色がわかりやすいところを中心に取り上げたので、前時よりもブラジルのイメージがもてたようだった。

3 使用した教材

〈教材４〉「世界に行ってみたらホントはこんなトコだった（ブラジル編)」(一部抜粋)
〈教材５〉付箋



〈教材６〉付箋を貼っていくワークシート

3 時限目 「ブラジルの子達へプレゼントをつくろう」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルの子ども達へ送るプレゼントを作ろう。
・日本の学校の１年間行事の絵を描く。
・季節の折り紙を折る。

この時限のねらい
・プレゼント作りを通して、遠い国であるブラジルとのつながりを感じる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇日本の文化である折り紙を通して、日本の様子を伝えようと、一生懸命活動に取り組んで、きれいに作品を作っていた。

◇学校行事の絵を描く際、「○○ってブラジルの人たちわかるかな？」「ブラジルに人たちはどこに遠足に行くのかな？」など、渡す相手であるブラジルの人々のことを意識している様子が見られた。

3　使用した教材

〈教材７〉模造紙・折り紙・画用紙

4 時限目　「ブラジルに行ってきたよ!」

1　子どもの活動の流れ

① 教師が実際に見て、体験してきたことをまとめたスライドを見て、クイズに答えながらブラジルについて知る。

② 国の特色（自然など）・衣・食・住と大きく４つのカテゴリにわけ紹介をしたものの中から、とくに興味を持った部分ノン感想をワークシートに記入していく。

この時限のねらい

・ブラジルへ行って、見てきたこと、体験してきたことの紹介を聞き、ブラジルへの興味関心を深める。
・ブラジルへのより具体的なイメージをもつ。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルにある自然・生物の多様性に圧倒されつつ、魅力を感じている様子が見られた。とくに動物の話の時に目を輝かせ、そのことについて感想を書く児童が多かった。

◇写真から感じるブラジルの人々の笑顔の明るさや人柄から､感想に｢わたしも友達になってみたい。｣｢優しそうな人たちだとおもった。｣と記入する児童がいた。

3　使用した教材

〈教材８〉パワーポイント

〈教材９〉感想用ワークシート

5 時限目　「これはなんでしょう?」

1　子どもの活動の流れ

① 現地で採ってきた写真を中心に、いったい何の写真なのか、日本とどういうところが違うのか、３択クイズ形式で答えていく。【班活動】

この時限のねらい

・ブラジル特有のものの写真から、日本とブラジルの違いを学ぶ。

2　子どもの活動の成果・反応

◇日本との違いに驚きながら、楽しそうに活動をしていた。

◇授業の終わりには、他にはどんなものがブラジルにあるのか、もっと知りたいという声が多くの児童から上がった。

3　使用した教材

〈教材10〉クイズ用の写真

〈教材11〉問題文

〈教材12〉ホワイトボード（各班１枚、相談して答えを決めて書く。）

①でんわ
②かがみ
③じゅうでんき

①どうぶつの　つめ
②はなびら
③さかなの　うろこ

6　時限目　「ブラジルパズル」

1　子どもの活動の流れ

①　台紙に書かれたブラジルについてのヒントを読み、パズルのピースを置いて、ブラジルの絵を完成させる。

こ の時限のねらい

日本とブラジルの違いについて、生活面を中心に学ぶ。

2　子どもの活動の成果・反応

◇パズルの裏表にブラジルの絵と日本の絵が描いてあるピースをよく見ながら、ヒントに当てはまるピースをはめていた。「これは絶対日本だ！」「この前のクイズに出てきたやつと同じだからブラジルはこっち」など、ブラジルにイメージや知識が増えてきたのを感じた。また、日本との違うを‘素敵’や、‘いいなぁ’という言葉で表現する姿が見られた。

3　使用した教材

〈教材13〉パズル

〈教材14〉パズル用の台紙

〈教材15〉答え合わせようの写真

7 時限目　「ブラジルはどーれだ？」

1　子どもの活動の流れ

①ブラジルらしい写真の中に、日系人のもたらした日本文化や、現代日本の文化で伝わっているものの写真を、ブラジルと日本とに分類をする。

②答え合わせをして、気がついたことや驚いたことなどを付箋で書き込んでいく。

この時限のねらい

・フォトランゲージを通して、ブラジル（の日系社会）について、知る。
・日本との共通点や似ている部分に気づき、日本とのつながりがあることを知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ラーメンやお寿司など、身近な食べ物がブラジルで食べられていることや、ポケモンがブラジルでも人気があることを知ると、驚きつつも嬉しそうな反応をしていた。また、コロニア・ピニャールの写真を見て、「ピニャールは日本語なの？」「日本語がすごく上手い！」など日系社会の様子に興味をもつ意見も見られた。

3　使用した教材

〈教材16〉フォトランゲージ用の写真
〈教材17〉ワークシート

8 時限目　「ブラジルへわたった日本人」

1　子どもの活動の流れ

①　日系人についての紙芝居を聞く。
②　世界で活躍する日系人について知る。

この時限のねらい

・ブラジルと日本とのつながりと、日系人について知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇前時の活動で、なぜとおく離れたブラジルに日本らしさがたくさんあるのか、紙芝居を通して知り、納得していた。

◇活躍する日系人を知り、ブラジルに対してより親しみを感じていたようだった。

3　使用した教材

〈教材18〉紙芝居
〈教材19〉日系人紹介スライド

9 時限目　「おスシの世界旅行」

1　子どもの活動の流れ

① ブラジルで食べた食事の紹介を聞く。（ブラジルの「スシ」の紹介で区切る）
② スシの特徴が書かれた世界地図に合う、スシカードを置いていく。
③ 日本で変化した外国の食べ物について知る。

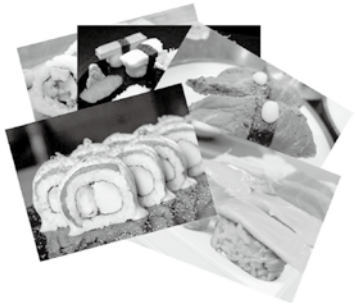
2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジルのお寿司と日本のお寿司のネタの違いに驚いていた。その後の各国のスシの分類では、驚きと共に、「こんなの食べるの？」と戸惑いの声が多く聞こえた。しかし、その後のワークシートでそれぞれのおスシの「食べたい度」を聞くと、気になるから食べてみたい、見た目がきれいなど、肯定的な反応が見られた。

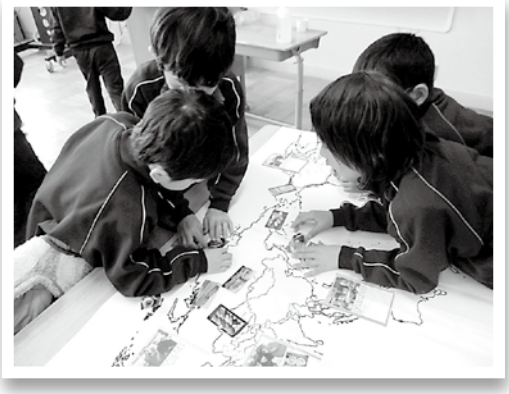
◇日本でアレンジされた外国料理（たらこスパゲティやカレーうどんなど）について述べると、「確かに美味しい！」「好き」といった声が起こり、文化が交わることの面白さを感じてくれたのではないかと思う。

3　使用した教材

〈教材20〉ブラジルでの食事のスライド



〈教材21〉スシカード



▲授業の様子

〈教材21〉食べたい度ワークシート

〈教材22〉世界地図とヒントカード

10-12 時限目　「すてき発見隊」

1　子どもの活動の流れ

① 興味のある国を中心に調べ、特に気に入った物を１つ選ぶ
② 選んだものを紹介シートにまとめ、発表しあう。

この時限のねらい

・世界の食べ物や服、遊び・文化に興味をもつ。
・それぞれの国のもつ「すてき」に気づき、楽しむ心をもつ。

2　子どもの活動の成果・反応

◇今までの活動で、ブラジルへの親しみと共に、他の国についても知りたい、自分の好きな国の食べ物や人々についてもブラジルと同じように知りたいという声が出てくるようになっていた。そうした流れで入った活動で、子ども達は色々な国についての本を見て、目を輝かせながら、「すてき」探しをしている。

3　使用した教材

〈教材23〉「世界のともだちシリーズ第１期」2013年、偕成社
〈教材24〉紹介シート

全体を通して

1　授業の様子

今回、わたしがこの研修に参加させていただいた１番の理由は、子ども達に世界に対する関心を持ってもらう授業をつくりたいというものでした。低学年への授業だったので、子ども達がいかに他の国のことを楽しみながら心を近づけられるかということが課題でした。１年生にわかる範囲となると、つたえられる日本との違いやその国の特色が絞られてしまうので、教材作りに難しさを感じることもありました。しかし、ブラジルについての授業をすると言えばクラス中に歓声が起き、授業終わりには、「次はこんなことが知りたい！」「他の国ではどうなっているの？」など、海外への興味関心が高まっていく姿が見られました。今回の実践を通して、子ども達が、他国の出来事にも関心をもつアンテナや、遠く離れた国に暮らす人々にも思いを馳せられるような心の芽を育てられていたら、と思います。

〈写真１〉授業の様子

〈写真２〉ブラジルについての報告の様子

2 参考文献・資料

1）世界各国のユニークな寿司のまとめ
https://matome.naver.jp/m/odai.2142712137832377101

2）各界の著名な日系ブラジル人
https://matome.naver.jp/m/odai/2140387442157620401

3）フジテレビ番組世界行ってみたらホントはこんなトコだった!？ブラジル編

4）福江誠「日本人が知らない世界のすし」、2010年、日系プレミアシリーズ

5）ピーター・ガットマン著・斎藤慎子　翻訳「世界の果ての愛らしい子どもたち」2016年、エクスナレッジ

6）JICA海外移住資料館貸出資料　紙芝居
中山京子　森重岳雄「海を渡った日本人」、中山京子「ハワイに渡った日系移民」

7）「世界のともだちシリーズ第１期」2013年、偕成社

みんな違って、みんな良い

実践場所	神奈川県	川崎市立西高津中学校	実践者	伊東　悠太
対　象	中学３年生	時間数	９時間	
担当教科	理科	実践教科	学活、総合的な学習の時間	
ねらい	・ブラジルの文化や人々、環境について考え、世界への視野を広げる。 ・世界が抱える諸問題と私たちの生活がつながっていることを知り、考える。 ・身近な生活の中で関わる様々な人の違いを認め、生活を送ろうと考えるきっかけとする。			

実践内容	回	プログラム	備　考
	1	**【日本と他国を比べ、違いを考える】** ・「世界がもし100人の村だったら」のガーナの映像を見て、日本との違いを考える。　〈ダブルイメージマップ〉	参考資料 「世界がもし100人の村だったら」（フジテレビ）
	2	**【かわいそう・・・かわいそう？】** ・マイケル・ジャクソン「We Are The World」の曲から世界を考える	参考資料 「We Are The World」ミュージックビデオ （マイケル・ジャクソン）
	3･4	**【ブラジルとつながろう】** ・ブラジルの子にブラジルのイメージと日本を紹介する簡単なメッセージカードを作成する。	
	5	**【ブラジルに行ってきたよ】** ・教師海外研修で行ったブラジルがどのような国だったか公演を聞き、ブラジルの文化や人、環境について知る。 〈公演〉	
	6･7	**【まるごとニッポンツアー　を考えよう】** ・東京オリンピックの際に日本について知ることができる2泊3日のツアーを考える。	
	8	**【いま　ここ　世界と自分】** ・ブラジルの森林破壊の現状と私たちのつながりを考える。	
	9	**【幸せってなんだろう】** ・世界の人の幸せ、私たちの幸せについて考える。	参考資料 「世界の子どもたちの笑顔」（日本ユニセフ協会）

成　果	社会科の世界の現状の授業や英語の他国を取り上げる単元と関連をもち、様々な国に対して興味・関心が高まった生徒が多くいると感じる。ブラジルの様々な文化が共生している社会をしることから、身近な生活の中で関わる人の個性を認めて生活を送ろうと考える生徒が多く生まれた。
課　題	授業の時間を確保することが難しく、活動一つひとつにつながりを生徒が感じることが難しくなってしまった。今回の実践が今後につながるようより深まる活動へと改善を重ねる必要がある。
備　考	総合の学習の時間において「日本の魅力に迫る」といったテーマの活動の中に盛り込んで授業実践を行った。リオオリンピックもあったことから活動に意欲をもつ子が多くいたと考えられる。

授業実践の詳細

1 時限目　「日本と他国を比べ、違いを考える」

1 子どもの活動の流れ

① ダブルイメージマップを用いて、日本の特徴、ガーナのイメージをグループで考える。
② 「世界がもし100人の村だったら」のガーナの映像を見る。
③ 映像を見て思ったことを書かせ、グループで共有する。
④ 今日の授業を通しての４K（気づいたこと、考えたこと、感想、これからへ）を書く。

この時限のねらい

ガーナの児童労働の映像をきっかけとして世界の現状と日本について比較しながら考える。また、チョコレートの原料のカカオの生産から日本と世界の課題のつながりについて考える。

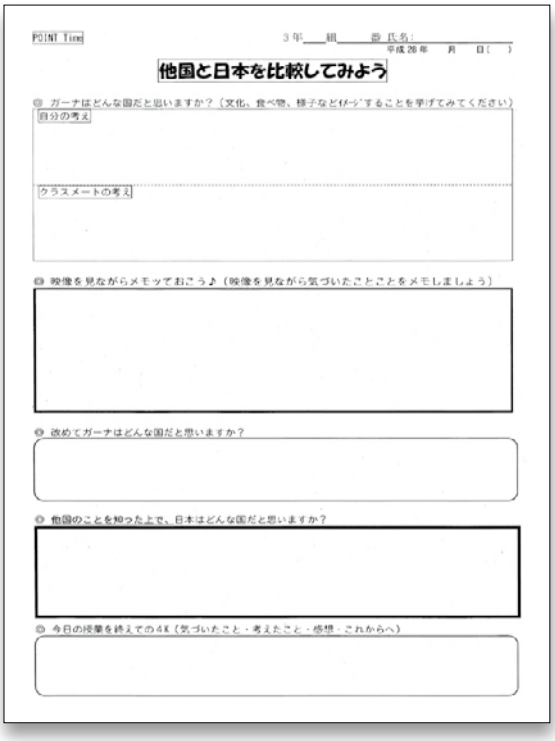
2 子どもの活動の成果・反応

感想

◇「日本の良さを改めて考えるとなかなかたくさんは思いつかなかった。」
◇「ガーナの子どもが作ったカカオでチョコレートはできていて、それを私たちが食べていることに驚いた。」
◇「ガーナの子どもがカカオが何になるのかわからないといっていたことにビックリした。」
◇「ガーナの子の笑顔が素敵だった。」

3 使用した教材

〈教材１〉「世界がもし100人の村だったら」（フジテレビ）
〈教材２〉ワークシート


POINT Time　3年＿＿組＿＿番 氏名：　平成28年　月　日（　）

他国と日本を比較してみよう

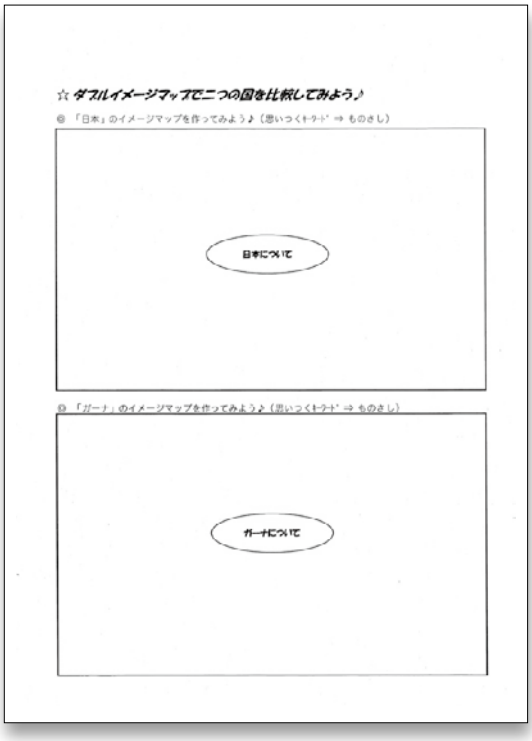
◎ ガーナはどんな国だと思いますか？（文化、食べ物、様子などイメージすることを挙げてみてください）
自分の考え
クラスメートの考え

◎ 映像を見ながらメモッておこう♪（映像を見ながら気づいたことことをメモしましょう）

◎ 改めてガーナはどんな国だと思いますか？

◎ 他国のことを知った上で、日本はどんな国だと思いますか？

◎ 今日の授業を終えての4K（気づいたこと・考えたこと・感想・これからへ）


☆ ダブルイメージマップで二つの国を比較してみよう♪

◎ 「日本」のイメージマップを作ってみよう♪（思いつくキーワード ⇒ ものさし）
日本について

◎ 「ガーナ」のイメージマップを作ってみよう♪（思いつくキーワード ⇒ ものさし）
ガーナについて

2 時限目　「かわいそう・・・かわいそう?」

1 子どもの活動の流れ

① 「We Are The World」ミュージックビデオ（マイケル･ジャクソン）を聞く
② 曲を聞いての４K（考えたこと・気づいたこと・感想・これからへ）を書き、グループで共有する。
③ 歌詞の中の「So let’s start giving」（与えることを始めよう）という歌詞を考え、グループで共有する。
④ 教員から上から目線の言葉ではないかと意見を伝え、考える。
⑤ 授業を通しての４K（気づいたこと、考えたこと、感想、これから）を書く。

この時限のねらい

「We Are The World」の「So let’s start giving（与えることをはじめよう)」という歌詞から、途上国に対して改めて考える機会とする。

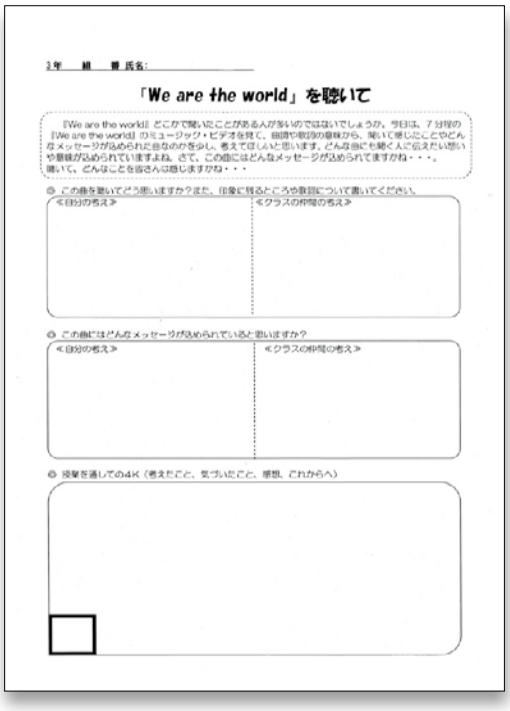
2 子どもの活動の成果・反応

感 想

◇「So let’s start giving」という歌詞を考えて、確かに私たちはかわいそうだからと上から目線で考えていたように感じた。

◇かわいそうだからと考えるのは相手を思うから考えることだと思う。かわいそうなどと思うことは悪いことではない。でも上から目線ではなくて本当に心から思うことが大事だと思った。

◇「We Are The World」は私は好きだ。世界が平和になればなぁと感じる曲だ。


年　組　番 氏名:

「We are the world」を聴いて

『We are the world』どこかで聞いたことがある人が多いのではないでしょうか。今日は、７分程の『We are the world』のミュージック・ビデオを見て、曲調や歌詞の意味から、聞いて感じたことやどんなメッセージが込められた曲なのかを少し、考えてほしいと思います。どんな曲にも聞く人に伝えたい想いや意味が込められていますよね。さて、この曲にはどんなメッセージが込められてますかね・・・。聞いて、どんなことを皆さんは感じますかね・・・

① この曲を聞いてどう思いますか？また、印象に残るところや歌詞について書いてください。

＜自分の考え＞	＜クラスの仲間の考え＞

② この曲にはどんなメッセージが込められていると思いますか？

＜自分の考え＞	＜クラスの仲間の考え＞

③ 授業を通しての4K（考えたこと、気づいたこと、感想、これからへ）

3 使用した教材

〈教材３〉「We Are The World」
　　ミュージックビデオ（マイケル・ジャクソン）
〈教材４〉ワークシート

3･4 時限目　「ブラジルとつながろう」

1 子どもの活動の流れ

① ブラジルのイメージを考え、発言させる。
② ブラジルの子どもたちに日本の良さを伝えるためのメッセージカードを日本語でつくる。
③ ブラジルの子どもたちにブラジルのイメージを伝えるためのメッセージカードを日本語でつくる。
④ インターネットを用いてポルトガル語に翻訳する。
⑤ 今日の授業を通しての４Kを書く。

この時限のねらい

日本を代表としてブラジルの子どもたちへ日本を紹介するメッセージカードを書くことから日本の良さとブラジルのイメージを考える。メッセージカードを書くことから他国とつながる機会をつくり世界への興味・関心を高める。

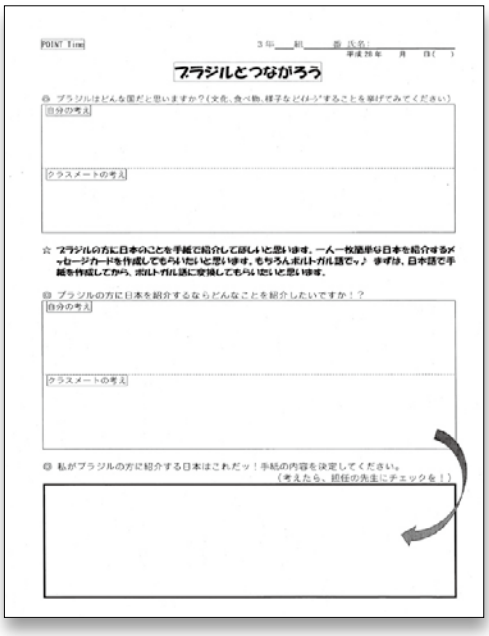
2　子どもの活動の成果・反応

感 想

◇私が書いた日本を紹介するメッセージカードがブラジルの子どもたちに届くということは、ブラジルのその子の日本のイメージに直結すると思うと一生懸命に日本の良さを考えられた。

◇オリンピックがあることからブラジルについて少し前から興味をもっていたけれど、なかなか知る機会は少ない。ブラジルの子が書くブラジルを紹介してくれる手紙が返ってくることが楽しみ。

◇なかなか世界とつながる機会は少ないと思っていたけれど、今後社会人になってお金ができたら世界に遊びでもいきたいとやっぱり思ったし、つながりをつくることができたらと思った。


POINT Time

ブラジルとつながろう

ブラジルはどんな国だと思いますか？(文化、食べ物、様子などは…)することを挙げてみてください)

自分の考え

クラスメートの考え

☆ ブラジルの方に日本のことを手紙で紹介してほしいと思います。一人一枚簡単な日本を紹介するメッセージカードを作成してもらいたいと思います。もちろんポルトガル語で。♪ まずは、日本語で手紙を作成してから、ポルトガル語に変換してもらいたいと思います。

ブラジルの方に日本を紹介するならどんなことを紹介したいですか！？

自分の考え

クラスメートの考え

私がブラジルの方に紹介する日本はこれだっ！手紙の内容を決定してください。

(考えたら、担任の先生にチェックを！)

3　使用した教材

〈教材５〉ワークシート

5　時限目　「ブラジルに行ってきたよ」

1　子どもの活動の流れ

① ブラジルのイメージを改めて考える。
② 教師海外研修で過ごして知ったブラジルについてパワーポイントを用いて紹介する。
③ 公演を聞き、ブラジルの文化や人、環境について知り、考える。
④ ブラジルの子ども達が書いてくれた日本のイメージとブラジルを紹介するメッセージカードを見て、ブラジルを考える。
⑤ 授業を通しての４Ｋ（気づいたこと、考えたこと、感想、これからへ）を書く。

この時限のねらい

教師海外研修で知ったブラジルを紹介し、映像にはなるがブラジルについて知ることから、ブラジルについて考える。また、日本がブラジルとつながっていることを知り、日本と世界のつながりを考えるきっかけとする。

2　子どもの活動の成果・反応

感 想

◇アマゾン川に２つの川が合流している箇所があることを初めて知った。その箇所では色が違い、温度も違うことを映像を見て知り、日本にはそのような箇所はないと思うから自然のスケールの違いを感じた。

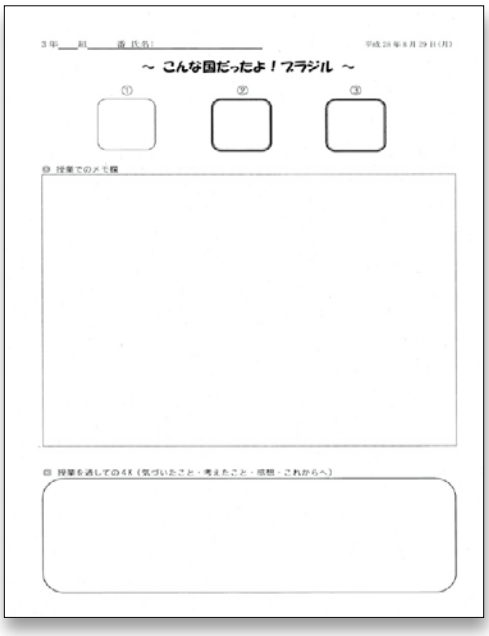
◇学校では掃除の時間がなく、掃除の文化がないということにビックリした。掃除はお手伝いさんの方がするという事にも驚いた。鉛筆を削っていた男の子がゴミを床にそのまま捨てている映像が衝撃的だった。

◇日本に憧れを持っているメッセージや日本にいきたいといった考えをもっている子ども達が多くて、他の国から日本は本当に良い国だと思われていることを知れた。日本人がブラジルに行ったときに制服のような格好で行き、食事マナーも当たり前に大切にしていたことが最初に評価された歴史があると言っていた。私も普段の生活からマナーを大切にしていければと思った。

◇やっぱ治安はそこまで良くないのかなと感じた。学校に送り迎えの車がたくさん来るということに驚いた。

3　使用した教材

〈教材６〉ワークシート



6・7 時限目　「まるごとニッポンツアー を考えよう」

1　子どもの活動の流れ

① 東京オリンピックで日本に来る外国人の方に知ってもらいたい日本について考え、グループで共有する。

② 知ってもらいたい日本に迫れる日本の箇所を考える。

③ ２泊３日で日本について知れるツアーをグループで考え、発表する。

④ 授業を通しての４Ｋ（気づいたこと、考えたこと、感想、これからへ）を書く。

この時限のねらい

日本という国について外国人の方に知ってもらえるツアーを考えることから、自分自身の身近な世界について考える機会とする。

2　子どもの活動の成果・反応

感 想

◇日本を知れるツアーに実際に私も行って、日本について実際に触れて改めて日本について考えたいと思った。

◇日本についてせっかく日本にきた人たちにわかってもらうためにはと考えるとどこに行けばいいのかと一生懸命に考えた。

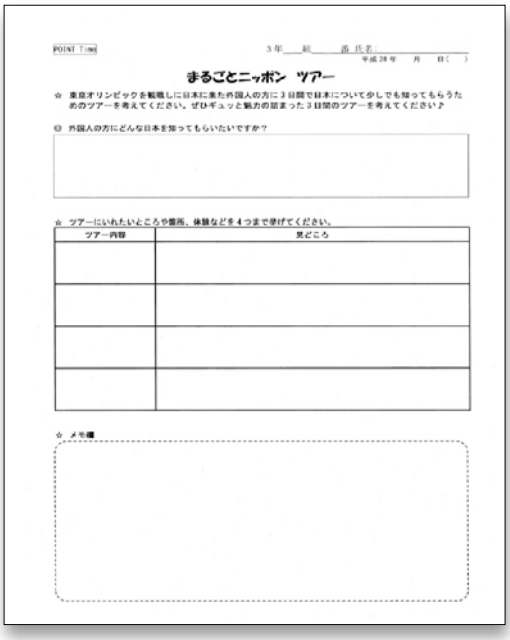
◇ディズニーランドなどのテーマパークももちろん日本の面白い場所で行ってもらいたいと思ったけれど、学校や公園など身近な部分も紹介したいと思った。

◇原爆ドームのような日本の歴史も知ってほしいと思った。

◇東京オリンピックの時には大学生だから、日本に来る人たちと何かのかたちで関われたらと思った。

3 使用した教材

〈教材７〉ワークシート



まるごとニッポン ツアー

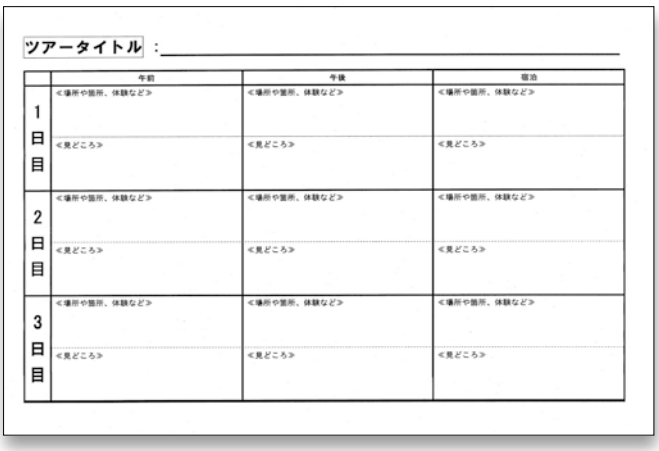
☆ 東京オリンピックを観戦しに日本に来た外国人の方に３日間で日本について少しでも知ってもらうためのツアーを考えてください。ぜひギュッと魅力の詰まった３日間のツアーを考えてください♪

◎ 外国人の方にどんな日本を知ってもらいたいですか？

☆ ツアーにいれたいところや箇所、体験などを４つまで挙げてください。

ツアー内容	見どころ

☆ メモ欄



ツアータイトル ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	午前	午後	宿泊
1日目	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫
	≪見どころ≫	≪見どころ≫	≪見どころ≫
2日目	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫
	≪見どころ≫	≪見どころ≫	≪見どころ≫
3日目	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫	≪場所や箇所、体験など≫
	≪見どころ≫	≪見どころ≫	≪見どころ≫

8 時限目 「いま ここ 世界と自分」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

今の日本について考えるとともに、ブラジルを代表に世界の現状を考える。今の自分と世界がつながっていることを知り、今の自分にできることや大切なこと、これから自分にできること、大切にしたいと思うことを考える。

① 日本の良いところと課題を考え、グループで共有する。
② ブラジルの良いところと課題を考え、グループで共有する。
③ ブラジルの森林破壊の現状を知る。
④ 森林破壊を行う現地の人にどのように声を掛けて止めさせるかをグループで考える。
⑤ 教員が現地人となり、森林破壊を止めさせられるように声を掛ける。また、反論に対してグループで協力して説得する。
⑥ 現地人の方の反論の森林伐採を行う理由から日本の私たちが森林伐採を行う理由になっていることを知る。
⑦ 授業を通しての４Ｋ（気づいたこと、考えたこと、感想、これからへ）を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

感 想

◇今という瞬間に森林破壊が行われていることを改めて感じた。

◇日本で私たちが安くチョコレートを買って食べているからガーナの子ども達が働いていることを前に知ったけれど、ガーナに限らずブラジルでも日本が原因で問題が起きていることを知った。

◇どうしたらブラジルでの森林破壊はなくなるのだろうと考えたけれどもなかなか思いつかない・・・。

3 使用した教材

〈教材８〉ワークシート

9 時限目 「幸せってなんだろう」

1 子どもの活動の流れ

① 「幸せ」とは何か考え、グループで共有する。
② 「世界の子どもたちの笑顔」（日本ユニセフ協会）の世界の子ども達の笑顔の映像を見て感じたことを書き、共有する。
③ これから自分自身の生活の中で大切にしたいと思うことを考える。
④ 世界とのつながりを改めて考える。

この時限のねらい

幸せとは何かを考えることから、身近の生活について改めて考える。中でも様々な文化が共存しているブラジルについて紹介をし、身近で関わる人とのこれからの関わり、今後の様々な人との関わりについて考える。

2 子どもの活動の成果・反応

感 想

◇世界の様々なところでいろんなことがあるけれども、笑顔の映像を見てやっぱり世界が平和になってみんなが幸せを感じることができる社会になっていくといいなと思った。そのためにこれからできることがあったらやっていきたい。

◇ブラジルのさまざまな文化が共存していることを知り、クラスでも色んな個性を持つ人がいるけど、認め合って生活できるといいなと思った。

◇これから先、世界に出ることがあればその機会を大切にしたいと思った。

3 使用した教材

〈教材９〉ワークシート

〈教材10〉「世界の子どもたちの笑顔」（日本ユニセフ協会）

全体を通して

1　授業の様子

授業実践していく上で、子どもたちにブラジルの現状や課題、良さを共に学び、知り、感じることからブラジルをきっかけとして世界に目を向けるとともに、身近にある日本について深く考える時間をつくれるようにと考えました。今年度、リオオリンピックがあったことから子どもたちのブラジルに対する関心が高く、日系社会などのブラジルの歴史の話をしても多くの子が意欲をもって授業に参加してくれました。また、社会科の授業で、日系社会や途上国の課題などについて学習をしているため、今までの知識を用いて話し合い活動を進める子どもたちの姿も見られました。英語の授業や修学旅行で海外の方にインタビューしたことからも海外への関心は高まっていて、中学３年生で授業実践したことには意味があったように感じました。しかし、なかなか興味を持てずに授業に意欲を持てない子がいたことも事実としてあります。そのような子も参加できる、参加したくなる授業を実践できるよう今後も考えていきたいと思っています。

〈写真１〉「まるごとニッポンツアー を考えよう」授業板書

〈写真２〉「幸せってなんなだろう」授業風景

2　参考文献・資料

１）田中治彦『「援助」する前に考えよう』開発教育協会、2006年11月１日

２）ユニセフHP
http://www.unicef.or.jp/

３）JICA HP
https://www.jica.go.jp/

ブラジルを通して日本を知り、日本について考える

実践場所	神奈川県	座間市立南中学校	実践者	榊原　千晶
対　象	中学３年	時間数	４時間	
担当教科	保健体育科	実践教科	保健体育	
ねらい	・日本と世界とのつながりを知ることを通して、異文化を持った人たちと共に生きることの大切さに気づき、実践できる力を養う。 ・国際的なスポーツの大会が世界の人々をつなぐ機会となることを実感させ、意欲的に運動やスポーツに関わる意欲や態度を養う。 ・オリンピック開催国ブラジルの歴史や文化、生活を知ることで、自分自身や住んでいる国について振り返るきっかけとする。			

実践内容

回	プログラム	備　考
0	**事前レポート【リオデジャネイロオリンピック観戦をしよう】** 〇夏休み中に行われたリオデジャネイロオリンピックを観戦したり、調べたりして、感じたことや考えたこと、オリンピックから見えたブラジルの印象、パラリンピックの注目種目などをレポートにまとめる。	夏休みの課題として「オリンピック観戦レポート」
1	**【オリンピックを観戦して感じたことを共有しよう】** 〇オリンピックを観戦して感じたことや考えたことを共有する。	・ワークシート ・現地の写真、動画
2	**【国際的なスポーツ大会の文化的な役割とは？】** 〇オリンピックなどの国際的なスポーツ大会の文化的な役割を考える。	・ワークシート
3	**【ブラジルってどんな国？日本ってどんな国？】** 〇教師が見てきたブラジルという国を知る。 〇日系ブラジル人の歴史、日本とブラジルのつながりを知る。 〇日本の良さや魅力について考える。	・ワークシート ・フォトランゲージ ・現地の写真、動画 ・インタビュー映像
4	**【2020 年東京オリンピック成功の鍵とは？】** 〇 2016 年オリンピック開催国のブラジルの人々は、オリンピックに対してどのような思いを持っていたのかを知る。 〇 2020 年東京オリンピックに向けて、社会や自分にできることを考える。	・ワークシート ・現地の写真、動画 ・インタビュー映像

成　果	子供たちの持つ、ブラジルのイメージを多様なものに変えることができた。日本と世界とのつながりを知ることから、今住んでいる日本について振り返り、日本の良さを改めて感じた子供が多かったようだ。また、世界の人々をつなげる力を持つオリンピック大会に向けて、積極的に関わっていきたいという意欲を持たせることができたと感じている。
課　題	東京オリンピックに向けて、オリンピックへの関心や世界とつながっていくことへの意識や関心を持たせることはできたと思うが、具体的な行動につなげるために、さらにもう一歩踏み込んで、日本の良い所だけでなく課題や実行するための手立てについても、調べさせたり、考えさせたりすることができたら良かった。
備　考	教科での実践の他にも、中学２年生を対象とした学級での実践授業も行った。教師が見てきたブラジルの紹介から日本とブラジルのつながりに気づかせ、日系移民の歴史を「移民カルタ」をしながら学んだ。また、現地の学校で子供たちに書いてもらったアンケートをもとに、日本の魅力について考え、世界の中にある日本という視点を伝えることができたと感じる。

授業実践の詳細

1 時限目 「リオデジャネイロオリンピックを観戦して感じたことを共有しよう」

1 子どもの活動の流れ

① 夏休み課題レポートをもとに、リオデジャネイロオリンピックを観戦して感じたことや考えたことを、２人組になり、お互いに伝え合う。

② 別の人と２人組になり、他の人から聞いた話を伝える。①②を繰り返し、多くの人と共有する。

③ リオデジャネイロパラリンピックの注目競技（課題レポートより教師がまとめた）を知る。

この時限のねらい

観戦して感じたことや考えたことを多くの人と共有し、同じ国際的な大会でも人によって注目するポイントの違いや様々な思いがあることに気づく。

2 子どもの活動の成果・反応

◇実に多様な競技、トピックがあり、自分の知らなかったオリンピックを知ることができたようである。生徒の感想より、競技でも人によって見る視点が違ったり、感じることが違ったりすることを実感し、新たな視点を持ったという生徒が多く見られたのは、できるだけ多くの人と共有する流れが良かったのだと思う。

生徒の感想～友達の発表を聞いて、印象に残ったこと感じたこと～

◇友達の調べてきたレポートを聞いてみると様々なスポーツがあるということを改めて感じました

◇感じたことなどは人それぞれで色んな意見があったけど、私が思ったのは、みんな「あきらめないで一生懸命」ということをこれからに生かしていきたいと思っているなと思いました。

◇競技は違うけれど、私たちは前向きな気持ちをもらっているなと思いました。

◇私は色々な人の発表を聞いて、どの競技でも、どの国が勝つのかは努力次第だなと思いました。最後まで諦めずに自分が練習してきた成果を出すことが一番メダルをとることにつながるんだと思いました。

課題レポート～オリンピックを通して見えたブラジルの印象～

◇とても明るい印象を受けました。大会の会場はブラジルの自然の色がたくさん見られて、楽しい気持ちになりました。

◇現地の人たちも、自分の国だけではなく、他国のことも応援して盛り上げてくれて、世界が一つになったような感じがしました。

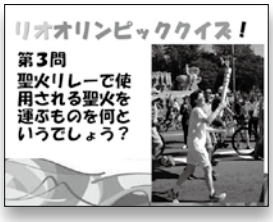
◇開会式直前まで工事が終わっていなかったり、選手村水道が通らなかったり色々あたふたしていて、もっとしっかりしてほしいと思ったけど、試合を観戦しているブラジル人は、日本の選手がいいプレイをすると、自国の選手ではないのに、歓声を送ってくれたりして、すごく温かい心をもった人が多いのだと思った。

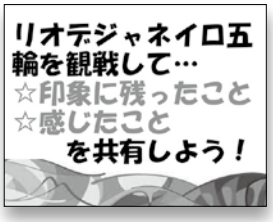
3 使用した教材

〈教材１〉ワークシート①

〈教材２〉現地で撮ったオリンピック関係の写真・動画・グッズ

〈使用したスライド〉





2 時限目　「国際的なスポーツ大会の文化的な役割とは？」

1　子どもの活動の流れ

① 知っている国際的なスポーツ大会を挙げる。
② 国際的なスポール大会の役割を考える。
③ オリンピック休戦について知る。
④ オリンピックとメディアの関係を知る。

この時限のねらい

オリンピックなどの国際的なスポーツ大会の文化的な役割について考える。（３年次の体育理論の単元「国際的なスポーツ大会の文化的な役割」）

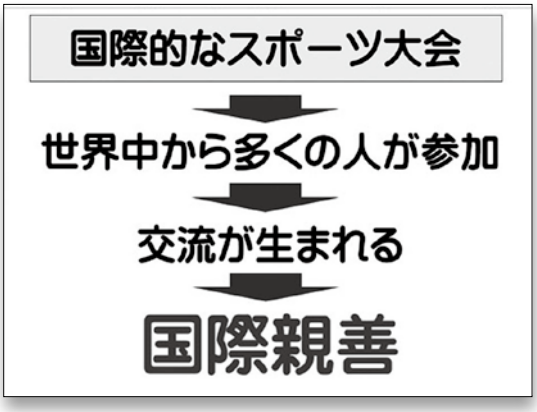
2　子どもの活動の成果・反応

◇前回の授業で、リオデジャネイロオリンピックを観戦して感じたことを共有したので、オリンピックなどの国際的なスポーツがどんな役割や影響があるのかを、身近なこととして考えられている様子であった。

3　使用した教材

〈教材３〉ワークシート②
〈教材４〉リオデジャネイロオリンピックの際の写真（インターネットより）

〈使用したスライド〉



3 時限目 「ブラジルってどんな国？日本ってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

① 教師が見てきたブラジルとはどのような国だったのかを聞く。（ブラジルと日本とのつながりについて気づく）

② 日系移民の歴史を知り、ブラジルの中で日本人が信頼されたり、日本文化が共存していたりすることを知る。

③ 日本の魅力や良さについて考え、グループで話し合い、全体で共有する。

この時限のねらい

2016年オリンピックの開催国であるブラジルという国を知ることを通して、日本の魅力について考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちは、ブラジルと日本のつながりの深さに驚き、日本の文化や言語が遠いブラジルの地でも大切にさせていることをとても誇らしいことのように感じている様子であった。話し合いでは、初めは当たり前のこと過ぎて何が日本の良さなのかが分からないという声をあったが、グループの人の考えをきっかけに「…そしたら、これもあるね！」と、徐々に活発な話し合いがされるようになった。

生徒の感想より

◇ブラジルの良さ、日本の良さ、ブラジルと日本の接点だったり、色々な点を見て考えることができたと思います。2020年にはオリンピックがあってたくさんの人が来ると思うので少しでも日本の良さを知ってもらいたいです。

◇今回の授業で一番強く感じたのは、ブラジル人は日本人よりも日本の良いところを知っていて、逆に私たち日本人はブラジル人のことをこんなに知らなかったんだと改めて分かったことです。普段、当たり前に感じていることが、世界に視点を向けると違って見えました。

◇ブラジルの人たちは日本のことをよく知ってくれているから、私たち日本人もブラジルのことをたくさん知らないといけないと思うし、それがこれからの日本とブラジルの関係につながると思った。

◇日本の良いところが世界でも活用されていたり、参考にされていることはとても嬉しいことだと思った。

3 使用した教材

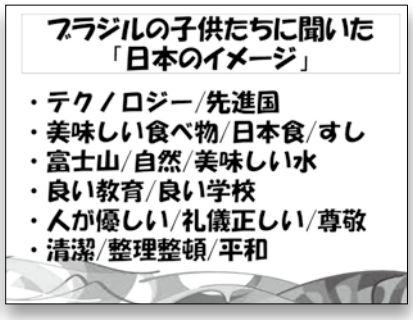
〈教材５〉ワークシート③

〈教材６〉ホワイトボード（各グループ）

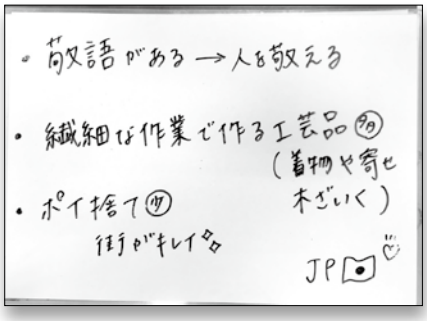
〈教材７〉現地で撮ったブラジルの写真・動画、フォトランゲージの写真

〈教材８〉現地で行ったインタビュー映像＆アンケート資料

〈使用したスライド〉



〈生徒が書いたホワイトボード〉



4 時限目 「2020年東京オリンピックを成功させる鍵とは？」

1 子どもの活動の流れ

① 教師が現地で聞いてきたインタビューなどを見て、オリンピック開催前のブラジルの人々のオリンピックに対する想いを知る。

② 東京オリンピックに向けて、社会や自分自身ができることを考え、グループで話し合い、全体で共有する。

この時限のねらい

ブラジルの人々のオリンピックに対する想いを知り、2020年東京オリンピックに向けて、社会や自分にできることを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇オリンピックに対する人々の想い（一部の意見であるという前置きをして）には、とても驚いていた。一連の授業のまとめとして、東京オリンピックに向けてできることを前向きに考えていた様子であった。

生徒の感想より

◇自分が今から何ができるのかに気づくことができたと思う。東京五輪を成功させるためにできることを、様々な角度からで見つけられて、自分が今できることを高校などの学習を通して見つけて協力したいと思った。

◇ブラジルの現地の人があまりオリンピックに興味を示していなくても、あれだけ盛り上がるのだから、2020年はもっと世界を盛り上げることが十分にできるんだと思った。そのためには、まず自分は成功への意識を高く持つことが大切だと思った。

◇どんな大会にもボランティアの人が沢山いて、そういう人達の支えで大会が成り立っているのだと思った。

◇東京オリンピックに向けて都市ボランティアをしたいと思い、英語の勉強を頑張りたいと思った。

◇ボランティアになったら日本の文化や特色を伝えていきたい。

◇授業を通して、テレビを通して観ていたオリンピックをすごく身近に感じて、２０２０年の東京オリンピックが楽しみになり、ぜひ外国語の勉強をしていきたいと思った。

3 使用した教材

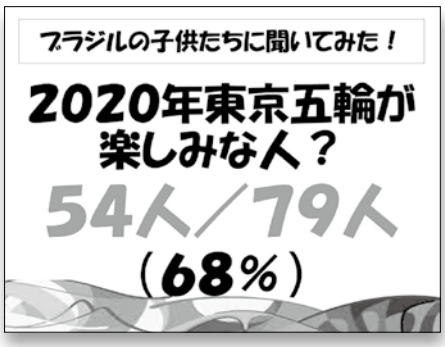
〈教材９〉ワークシート④

〈教材10〉ホワイトボード（各グループ）

〈教材11〉現地で撮ったブラジルの写真・動画

〈教材12〉現地で聞いてきたインタビュー動画、アンケート内容

〈使用したスライド〉



〈生徒が書いたホワイトボード〉

全体を通して

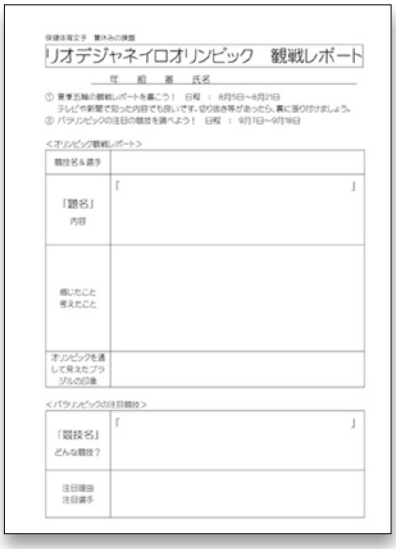
1　授業の様子

授業実践をするにあたり、学級での国際理解教育だけでなく、保健体育という教科の中でも実践をしていきたいと考え、授業計画や教材集めを行ったが、教科の内容との兼ね合いや時間数の面で多角的に教科の中に取り入れる難しさを感じた。しかし、リオデジャネイロオリンピックを切り口に子供たちの持つブラジルのイメージを多様なものに広げることができたり、日系人や日系社会のことを知ることから、今自分が住んでいる日本のことや世界とのつながりを考えさせるきっかけや、東京オリンピックに向けて、積極的に関わっていきたいという意欲を持たせることができたりしたと感じている。課題としては、「こういうことができるよね」と考えを出し合い、共有することができたが、それを実際にどのように行動に移していけるかなど具体的なところまで深めていくことができなかったので、今後の課題として取り組んでいきたいと思う。

〈写真１〉３時間目　教師が見たブラジル

〈写真２〉４時間目　グループで話し合い中

〈写真３〉　ワークシート①



リオデジャネイロオリンピック　観戦レポート

年　組　番　氏名

① 東京五輪の観戦レポートを書こう！　日程　：　8月5日～8月21日
テレビや新聞で知った内容でも良いです。切り抜き等があったら、裏に張り付けましょう。
② パラリンピックの注目の競技を調べよう！　日程　：　9月1日～9月18日

<オリンピック観戦レポート>

競技名＆選手	
「題名」内容	「　　」
感じたこと考えたこと	
オリンピックを通して見えたブラジルの印象	

<パラリンピックの注目競技>

「競技名」どんな競技？	「　　」
注目理由 注目選手	

ワークシート③

「ブラジルってどんな国？日本ってどんな国？」

1. ブラジル★行ってみたらこんな国だった！

ブラジルのイメージ	MEMO	ブラジルってこんな国

2. 「日本！JAPAN！JAPAO！」を考えよう！世界に知ってほしい魅力、良さとは？

国民性	
文化	
その他	

3. 今回の授業で一番印象に残ったこと、感じたことを書きましょう！

ワークシート④

「2020年東京五輪成功の鍵は？」

1. ブラジル人が見た、リオデジャネイロ五輪とは？

2. 2020年東京五輪まで4年。東京五輪の成功を目指すために、①②を考えよう！

① 社会全体でできること	② 個人でできること

3. スポーツを支える！スポーツボランティアをしよう！

① 2017年東京マラソン　…　ランナー約36,000人　・　ボランティア約11,000人
② 2016年リオ五輪　…　選手11,000人　・　ボランティア約50,000人
③ 2020年東京五輪　…　選手15,000人以内　・　ボランティア90,000人を目指す
○改善内容は？　○募集期間、募集年齢は？

4. 今回の授業で一番印象に残ったこと、感じたことを書きましょう！

※ワークシート②は省略

2 参考文献・資料

保健体育の実践授業で使用した参考文献・資料

1）「日本からブラジルへ－移住100年の歩み－」 財団法人日伯協会

2）「われら新世界に参加す」 海外移住資料館

3）現地で撮った写真や動画

4）現地で行ったインタビュー映像やアンケート資料

中学２年生を対象とした実践授業（道徳・総合的な学習の時間）で使用した参考文献・資料

1）「移民カルタ」 海外移住資料館

2）「いみんトランク」 海外移住資料館

3）「海を渡った日本人」 海外移住資料館）

4）DVD「夢と希望を運んだ船～移民船での暮らし～」 海外移住資料館

5）現地で撮った写真や動画

6）現地で行ったインタビュー映像やアンケート資料

私が見たブラジル、多文化共生〜I☆　BRAZIL !!〜

実践場所	神奈川県	神奈川総合産業高等学校	実践者	数間　一博
対　象	高校３年生（定時制）	時間数	10 時間	
担当教科	工業（機械）	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	・ブラジルの現状に目を向け、日本とは異なる生活や文化を知る。 ・日本とブラジルは、強い「つながり」があることを知る。 ・「多文化共生」について学習し、これから私たちにできることは何かを考える。			

実践内容

回	プログラム	備　考
1	**【世界を、ブラジルを知ろう！】** ・海外旅行で行ってみたい場所を考える。 ・ブラジルのイメージを話し合う。 ・ブラジルの高校生に質問した内容をみんなで考える。	・パワーポイント資料 ・ワークシート ・国旗（日本とブラジル）
2	**【ブラジル　フォトランゲージ】** ・教師海外研修で訪れたブラジルに関する写真を１人10枚ずつ用意する。	・ワークシート ・フォトランゲージ素材
3･4	**【ブラジルの現状を知る。世界が抱える様々な問題】** ・ブラジルの貧困について知る。 ・先進国と途上国の違いを学習する。	・ワークシート
5･6	**【日系人とは？日系移民の歴史を知る。〜移民カルタ〜】** ・海外移住や「日系人とは？」について学習する。 ・海外移住の歴史をカルタから読み解く。	・ワークシート ・移民カルタ
7	**【何のための開発？ブラジルのダイヤモンドランキング】** ・「開発」の目的やあり方を学習する。	・ワークシート ・ランキングカード
8	**【ブラジルに渡った日系人について知ろう！】** ・２種類の紙芝居を読んで、グループで感じたことを話し合う。	・ワークシート ・紙芝居（２種類）
9･10	**【活動の振り返り・まとめ】** ・これまでの学習を踏まえて、日本とブラジルの「つながり」を再確認する。各自、模造紙に絵や言葉で内容をまとめる。	・パワーポイント資料 ・模造紙 ・色鉛筆、マジック

成　果	授業の初めは、何をするかさえ分からなかった 11 名の生徒たちも、ブラジルの現状や人々の生活、多様性、世界の異なる文化を知り、次第に国際理解に興味を持つようになった。また、私たちには何ができるかを考えるようになり、みんなで情報交換することが多くなった。
課　題	ブラジルだけでなく、途上国や世界の問題、ボランティア活動に興味を持ち、多文化共生について、生徒たちにもっと知ってもらえるように継続して働きかけを行っていきたい。さらに、授業では生徒がグループ活動で、自由に意見を出し合える環境をつくることが必要であると感じた。
備　考	今後は、JICA より講師を招聘し、校内で「国際理解教育」に関する講演会を開くなど、生徒や教員に対して日本のみならず世界の状況を発信していきたい。

授業実践の詳細

1 時限目　「世界を、ブラジルを知ろう！」

1　子どもの活動の流れ

① 研修の様子をパワーポイントで説明することにより、その状況を確認する。
② 海外旅行で行ってみたい場所を３箇所まで考える。
③ ブラジルのイメージについて考え、さらにブラジルの生徒が持っている日本のイメージについて資料を確認する。

この時限のねらい

世界やブラジルが、日本と強い「つながり」があることを理解させる。さらに、異文化に興味を持ち、地球規模で協力し合うことや、課題を解決していくことの重要性を考える。

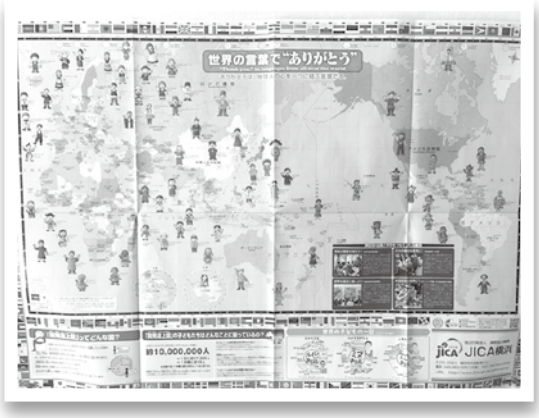
2　子どもの活動の成果・反応

◇生徒たちが、ブラジルでの活動報告を楽しく聞いている様子を確認できた。
◇「先生は、本当にブラジルに行ったのか？」と疑問に思っていた生徒が、ブラジルで活動する動画を見て、驚きの表情を見せていた。
◇個人発表の中で、多くの生徒が世界に目を向けていることを知ることができた。

3　使用した教材

〈教材１〉『国際理解教育実践資料～世界を知ろう！考えよう！』、2014年、JICA地球ひろば

〈教材２〉世界地図（JICA版）



〈教材３〉パワーポイントによる資料（自作）

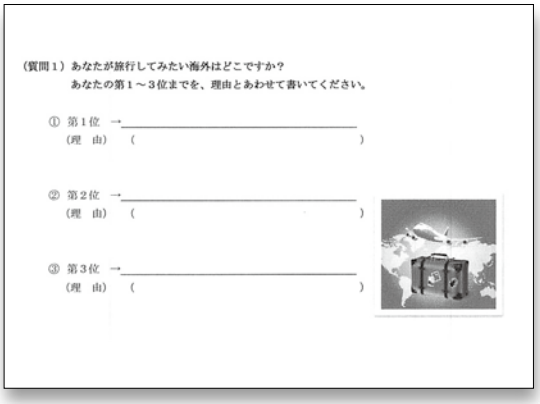
〈教材４〉ブラジルの高校生へ質問した内容

ブラジルの高校生へ質問

マルピアラ校　高校1年生（回答数22名）

1	日本のイメージは？	日本食(6)、テクノロジー(6)、清潔な国(2)、礼儀正しい(2)、アニメと漫画(2)、組織的(2)、建物がかっこいい(2)、ほか…未来の国、文化的、美しい国、大都市、人が多い、教育、自然災害が多い、相撲など
2	将来の夢は何？	写真家・作家(2)、幸せになる(2)、わからない(2)、家族を持つ(2)、サッカー選手(2)、目標を達成する(2)、ほか…母を助ける、テニス選手、全米を旅行、女優、LAに住むなど
3	人生で大切なものは？3つあげてください。	家族(16)、友達(15)、健康(5)、幸福(7)、勉強(4)、音楽(3)、旅行(3)、愛(2)、ほか…信仰、スポーツ、ペット、決断、サッカー、健康的な食事、本
4	勉強は好き？	はい(6)、まあまあ(3)、いいえ(10)、教科による(3)
5	今は、何がはやっている？	ポケモンGO(5)、アイフォン(5)、アプリのサッカーゲーム(2)、アディダス(2)、ほか…スニーカー、おしゃれ(ピアス、イヤリング、茶髪など)、YouTube
6	ブラジルで一番おいしい食べ物は？	フェイジョアーダ(14)、ファストフード(2)、ほか…ポンデケージョ、米と豆など
7	ブラジルの良いところは何？	美しい自然(6)、幸せな人たち(5)、自然災害がない(4)、料理(2)、美しい海岸(2)、ほか…人が寛容なところ、動植物、楽観的、表現の自由がある、多様性、助け合い、人が社交的

〈教材５〉ワークシート


（質問１）あなたが旅行してみたい海外はどこですか？
あなたの第１～３位までを、理由とあわせて書いてください。

① 第１位 →＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（理　由）（　　）

② 第２位 →＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（理　由）（　　）

③ 第３位 →＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（理　由）（　　）

2 時限目　「ブラジル　フォトランゲージ」

1 子どもの活動の流れ

① 研修で訪問したブラジル、日本の沖縄などの写真を10枚ずつ用意し、どちらが日本orブラジルかを考える。
② 写真の中から３枚を選び、その感想や疑問、発見したことなどをワークシートにまとめて発表する。
③ ブラジルの発展には、日本が関わっている（技術協力や支援等している）ことを学習する。

この時限のねらい

フォトランゲージを通して、ブラジルの現状を知り、日本とブラジルの違いを感じとる。さらに個人の立場だけではなく、２～３名で情報共有することにより、ブラジルの姿を多面的にとらえる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇初めて見るブラジルの風景（写真）に感動を覚えながら、積極的に学習活動をしていた。日本の神社にある鳥居が、ブラジルに存在することに戸惑いを隠せなかった。
◇ブラジルが、意外に発展しているんだという意見を見聞きした。
◇日本（修学旅行で訪問した沖縄）とブラジルの写真の違いに戸惑いながらも、文化の違いや多文化共生について、写真を見て確認・理解していた。

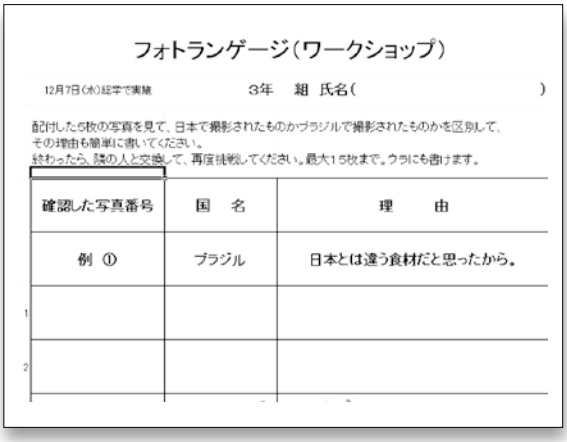
3 使用した教材

〈教材１〉リベルダージ地区散策（東洋人街）

〈教材２〉ブラジルで咲いていた桜

〈教材３〉イチゴが入った巻き寿司

〈教材４〉ワークシート



フォトランゲージ（ワークショップ）

12月7日(水)修学旅行で実施　　3年　組 氏名(　　)

配付した5枚の写真を見て、日本で撮影されたものかブラジルで撮影されたものかを区別して、その理由も簡単に書いてください。
終わったら、隣の人と交換して、再度挑戦してください。最大15枚まで。ウラにも書けます。

確認した写真番号	国　名	理　　由
例 ①	ブラジル	日本とは違う食材だと思ったから。
1		
2		

3・4 時限目　「ブラジルの現状を知る。世界が抱える様々な問題」

1　子どもの活動の流れ

①ブラジルの基本的概要（場所、面積、人口、人種、言語、気候など）を知る。
②前時に調べたブラジルのイメージと、先生が研修で得たブラジルの情報を確認する。
③ブラジルはサンバやコーヒーだけではないことを、現地で撮影した風景や食べ物などから調査する。

この時限のねらい

研修で訪れた３カ所の各都市、サンパウロ・マナウス・サントスの地形や写真を確認しながら、各地点で時差があること、日本人街、通貨や国民食などブラジルの現状や多様性を知り、ブラジルに関心を持つ。

2　子どもの活動の成果・反応

◇ブラジル国内で時差があること、サンパウロからアマゾンのあるマナウスまでは、飛行機で移動するのに４時間以上かかることに驚いていた。
◇ブラジルでは、日本では食べていないものがあること、味付けが変わっていることなどを知ることができた。
◇「なぜ、ブラジルに鳥居が？」について、生徒同士で仕切りに言い合っていた。日系人の歴史や活躍についての詳しい説明は、次時の授業で行うと言い、それまで生徒は疑問符が浮かんだままだった。

3　使用した教材

〈教材１〉リベルダージ地区散策（日本人街）

〈教材２〉訪問した場所（３都市）

サントス

サンパウロ

マナウス

〈教材３〉ブラジルの通貨

〈教材４〉ブラジルの国民食フェジョアーダ

5・6 時限目　「日系人とは？日系移民の歴史を知る。～移民カルタ～」

1　子どもの活動の流れ

① 日系人とはどんな人のことを言うのか、みんなで意見を出し合う。

② 「先生の隣に移っている人は誰か？」や、「リオ・オリンピックで出てきたマスコットキャラクターは誰が考案したか」など、日系人との関わりについて確認する。

③ 移民カルタを通して、日本人の苦労や活躍、日本とブラジルとのつながりを確認する。

この時限のねらい

日系人とはどんな人たちなのか、ブラジルの体験談を説明することで、日系人の生活を知る。また、移民カルタを通して、日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いを考える。

2　子どもの活動の成果・反応

◇日本人がブラジルへ移住して100年以上、さらに150万人以上の日系人がブラジルにいることを知り、長い歴史の積み重ねでここまで来たんだなあと、生徒たちは感慨深げであった。

◇リオ・オリンピックのマスコットを考案した人物が、日系人だと知って驚きを隠せない様子だった。

◇移民カルタを行ってみて、日系人の歴史や活躍を知ることができたこと、初めから自分の名前の文字を取りたいと言っている生徒、サッカー選手「田中マルクス闘莉王」のみのカードを最後にみんなで取り合う姿など、生徒たちから活発な発言や活動が見られた。

3　使用した教材

〈教材１〉日系人との２ショット写真

〈教材２〉参考資料（日系人ルシアナ・エグチさん）

〈教材３〉ワークシート～日系人は誰？～

〈教材４〉移民カルタ

7 時限目 「何のための開発？ブラジルのダイヤモンドランキング」

1 子どもの活動の流れ

① まず「開発って何？」を考えながら、ブラジルのために何が必要であるかを知る。
② 地球規模で考える課題であることを学習する。
③ 様々な意見を出し合い、開発にはひとそれぞれの見解があることを確認する。

この時限のねらい

開発の目的は、単なる発展や経済成長のためだけではなく、社会や人間の開発など多様な開発をはじめ、人権・環境・文化・平和など地球規模で考える課題が含まれていることを理解する。

2 子どもの活動の成果・反応

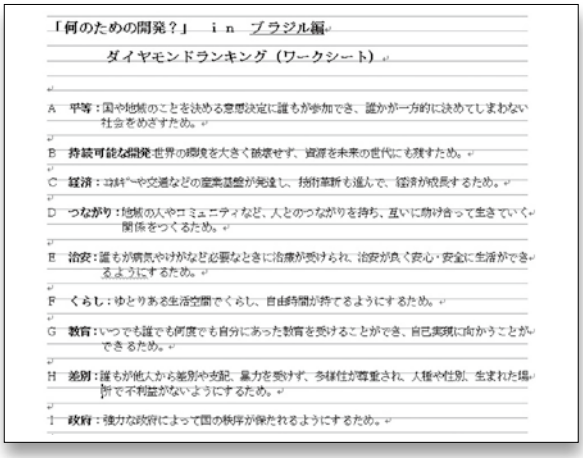
◇ブラジルの開発には、テレビやネットの報道にもあるような事件が多いことから、みんなが気軽に外出できる環境を整えることが必要であり、その観点から、まずは治安が第一であるという意見が多かった。

◇誰もが行きやすいブラジルとなるには、強力な存在感を持つ人が国をまとめていくのが良いという発言をする生徒もいた。（決して独裁的な権力を持つということではない。）

◇みんな同じランキングとはならず、独自の発想のもと、自分の意見・結果をまとめていた。ブラジルの発展のために、何が必要であるか、生徒が真剣に考えている姿を確認することができた。

3 使用した教材

〈教材１〉ダイヤモンドランキング



「何のための開発？」 in ブラジル編

ダイヤモンドランキング（ワークシート）

A 平等：国や地域のことを決める意思決定に誰もが参加でき、誰かが一方的に決めてしまわない社会をめざすため。

B 持続可能な開発：世界の視野を大きく破壊せず、資源を未来の世代にも残すため。

C 経済：ｺﾝﾋﾞﾆや交通などの産業基盤が発達し、技術革新も進んで、経済が成長するため。

D つながり：地域の人やコミュニティなど、人とのつながりを持ち、互いに助け合って生きていく関係をつくるため。

E 治安：誰もが病気やけがなど必要なときに治療が受けられ、治安が良く安心・安全に生活ができるようにするため。

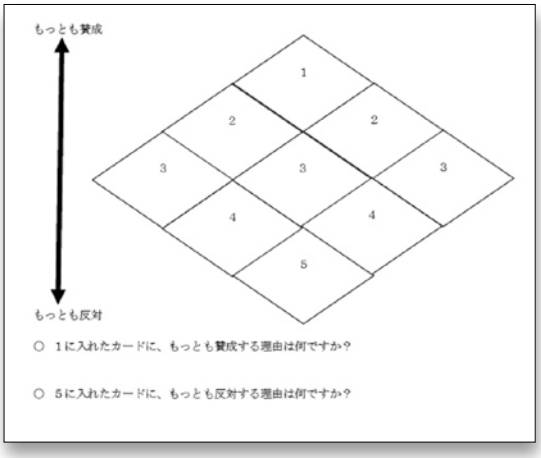
F くらし：ゆとりある生活空間でくらし、自由時間が持てるようにするため。

G 教育：いつでも誰でも何度でも自分にあった教育を受けることができ、自己実現に向かうことができるため。

H 差別：誰もが他人から差別や迫害、暴力を受けず、多様性が尊重され、人種や性別、生まれた場所で不利益がないようにするため。

I 政治：強力な政府によって国の秩序が保たれるようにするため。

〈教材２〉ワークシート



〈教材３〉アマゾンの森林伐採

8 時限目　「ブラジルに渡った日系人について知ろう！」

1　子どもの活動の流れ

① 話の流れにのって聞くだけではなく、ブラジルへ移住した歴史的背景などをイメージしながら読み取っていく。
② 代表者は、紙芝居に感情をこめて読む。
③ 読み終えたあと、再び紙芝居の絵や読みを確認しながら、ブラジル移民の歴史やその人物の背景などをイメージし、感想をまとめていく。

この時限のねらい

代表者が紙芝居を熱演し、ブラジルへの移民事情、歴史的背景、そこでの日系人の苦労や悩みなどを知る。

2　子どもの活動の成果・反応

◇カリナのブラジルとニッポンの紙芝居から、火炎放射器を使って森を焼き払い土地を開拓していった経緯を聞き、驚きを隠せない様子であった。日系人が、戦時中にとても苦労していたことを知り、これから自分たちには何ができるのかを友人同士で語り合っていた。
◇今回の研修で参加した２名の小学校の先生が作成した紙芝居を読んで、その出来栄えに感動しながら、生徒たちも時間があれば、日系人の実話をもとにした紙芝居を作成したいと理解を深めていた。
◇「ジャポネス・ガランチード」という言葉を初めて聞き、ブラジルでは日本人がたいへん信頼されているんだなと痛感し、ブラジル人や日系人と仲良くなりたいという意見を聞くことができた。

3　使用した教材

〈教材１〉ワークシート
〈教材２〉カリナのブラジルとニッポン

〈教材３〉ブラジルに渡った日本人（研修教員作成）

〈教材４〉コロニアピニャール①

〈教材５〉コロニアピニャール②

全体を通して

1　授業の様子

「国際理解って何？」という生徒の疑問をなくすために、私がこれまで訪れた海外の様子や、ブラジル研修で学んできたことを伝えるところから始まった授業。初めのころは、生徒は自分のことで精一杯という感覚はあったが、世界やブラジルの現状を画像や動画などを交えて説明すると、たちまち目の色が変わり、「ブラジルの見方が変わった」、「視野が広がった」と話す生徒が増えた。さらに、ブラジルに住む日系人について、JICAで借用した紙芝居や日系カルタを用いることにより、生徒たちが真剣な眼差しで、日系人の歴史や苦労、活躍などを学習しようとする姿を確認できた。

その反面、生徒に伝えたいことがあり過ぎて、限られたテーマしか伝えられなかったり、アクティブ・ラーニングを積極的に行えなかったことに悔いが残る。

最後に、今回の授業から生徒たちは日本とブラジルや世界との「つながり」を感じ取ってくれたと思う。今後も、生徒の記憶に残るような「国際理解教育」を展開していきたい。

〈写真１〉「国際理解研究班・初集合！」

〈写真２〉「学校に行けない子どもたち」を考える

〈写真３〉移民カルタに夢中

〈写真４〉「日系人とは？」についてまとめる

〈写真５〉紙芝居・熱演の様子

2 参考文献・資料

1）開発教育教材　『豊かさと開発』2016年、特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）
2）『開発教育実践ハンドブック　参加型学習で世界を感じる［改訂版］』2013年、特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）
3）『国際理解教育実践資料集〜世界を知ろう！考えよう！〜』2014年、JICA地球ひろば

知ってみて　考えてみる　自分と世界のつながりを

実践場所	神奈川県	城山高等学校	実践者	秋山　昭代
対　象	高校２年生	時間数	３時間	
担当教科	英語科	実践教科	総合的な学習の時間 / コミュニケーション英語Ⅱ	
ねらい	・ブラジルの人々の日常は価値観について知り、自分たちの生活との共通点、類似点に気づく。 ・「働く場所と夢の実現」について、開発と農村の過疎について考える。 ・ブラジルで行われているアグロフォレストリについて知る			

	回	プログラム	備　考
実践内容	0	**【事前アンケート】** 「ブラジルについて知っていること」「知りたいこと、聞いてみたいこと」についてアンケートを取る。 **【文化祭展示発表】** 研修で撮影した写真や、収集した資料を展示し、ブラジルについての大まかな概要を伝える。	* 海外研修前 ・ブラジルから持ち帰った新聞、ピニャール生徒の作文集なども展示
	1	**【ブラジルを知る】** ブラジルクイズ、フォトランゲージ 写真を見て､疑問に思ったこと､気づいたことを発表する。お辞儀の映像紹介 :::Culture of Bowing (１学期学習内容との関連)	・写真 ・映像 （日本語で挨拶、お辞儀をする場面）
	2	**【夢の実現と働く場所】** コミュニケーション英語Ⅱで、途上国（ガーナ）では学校に行くために農村から若者が離れていくという問題と関連し、ブラジル、ピニャール村の農村問題と働く場所について考える。	・ピニャール村、山下夫婦の映像 ・ETV 特集 「わたしの Casa(家)」
	3	**【違う？同じ？城高生 vs　ブラジルの高校生】** 「人生にとって大切なもの」「将来の夢」「自分の国の良いところ」について本校生徒と、ブラジルの高校生アンケートを比較し、共通点、相違点を考える。	・ワークシート
	4	**【持続可能な環境づくりの取り組み】＊予定** ブラジルで実際に起きている焼き畑の問題を伝え、対策として行われているアグロフォレストリ、フェアトレードについて考える。	・写真 （焼き畑、カカオ）

成　果	ブラジルは遠すぎて、自分たちとはかけ離れた世界だと思っていた生徒たちだが、日本語の授業、お辞儀、食文化など日本とが深いつながりのある国であること、また自分たちと似たような価値観を大切にし、平和に暮らしていることを伝えることができた。
課　題	授業実践の時間を確保するのが難しく、日系移民の歴史、多様な人種、民族が融合している多様な文化、貧富の格差の問題など、もう少し掘り下げて考えさせたいテーマがあるので、今後の課題として、他教科と連携するなどして実践していきたい。
備　考	

授業実践の詳細

1 時限目　「ブラジルを知る」

1　子どもの活動の流れ

この時限のねらい

リオデジャネイロ・オリンピックが行われる年でもあり、ブラジルについての情報が多く見聞きできるが、日常的な生活や「ブラジルの人々」について知る。

① ブラジルクイズ

② フォトランゲージ

グループごとに数枚の写真を配り、それぞれの写真で

・気になること、

・疑問に思うこと

・驚いたこと　　など自由に挙げる

グループ毎に発表をさせ、教師海外研修で見たり、体験したりしたことを補足をする。

③ お辞儀をするブラジルの生徒の様子・・・コミュニケーション英語Ⅱで学んだCulture of Bowingに関連し、日本人のお辞儀文化を取り入れている学校があることを紹介する

2　子どもの活動の成果・反応

◇日本食がたくさん食べられたり、小学生が日本語に興味を持っていたりすることが驚いた。

◇川にイルカがいるとは知らなかった。

◇街中の落書きが上手すぎて、アート作品みたいだった。

◇手巻き寿司のファストフードがあることや、苺の寿司があることが驚いた

◇ラジオ体操は日本語のまま使われていた。

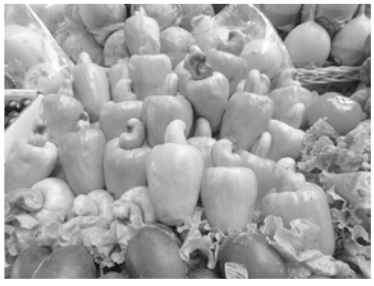
★もっと知りたいこと

・普通の人の家の中とか見てみたい。

・スポーツのこと

3　使用した教材

フォトランゲージ・クイズ使用した写真（一部）



2 時限目　「夢の実現と働く場所」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

地元で就職するか、都会へ働きにでるか、それぞれどんな問題があるか。働く場所を選ぶ自由があるかないか、についても考えさせたい。

① コミュニケーション英語Ⅱの教科書の中で、途上国の子どもたちが大学や就職のために農村を離れ、都会へ行ってしまい故郷に戻ってこないことを学ぶ。
② 子どもたちが、村を出てしまうことによる問題、夢の実現のために地元を離れることを考える。
③ コロニア・ピニャールの夫婦の息子が、大学へ行くために地元を離れてしまうことへの思いを語る映像を見る。
④ 日本で働く日系南米人の若者たちが、「ブラジルへ帰る」という選択をする若者と、「日本に残って働く」ことを選択する若者が描かれた映像を見る。
⑤ ③，④の映像を見て、「働く場所」が、どんな意味をもっているかを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇生徒の意見から

・「農業の後継者がいないことは深刻な問題だけれど、農業を本当にやりたい人じゃないと続かないから、農業をやりたい人がいたら、その土地の人じゃなくても受け入れた方がいい。」
・「若者がいなくなると高齢化が進んで、その地域に活気がなくなる。自分も将来はどこで働くかわからないけれど、親たちが高齢化したら地元に戻ってくるかもしれない。」
・「働く場所を選べるのは、ある意味幸せなことだと思った。経済的な理由で働く場所を選べないとしたら、それは不幸だけど、本当にやりたいことができるなら不幸ではないと思う。」
・「やりたいことが地元になければ、都会に行くと思う。地域が廃れるのは仕方がない。」

◇本校の生徒は、地元志向が強く、進学先や就職先として、比較的近郊を選び、地元から通うことを選ぶ生徒が多い。それは、地元で十分やりたいことの選択肢を探せることも一つの理由だが、どちらかというと、「冒険しない」「安全志向」のようにも感じている。二つの映像は、いずれも「地元を離れなければならない」、または「地元に残らなければならない」という物理的、経済的な問題が絡んでいるということを考えるきっかけになったのではないかと思う。

3 使用した教材

〈教材１〉コロニア・ピニャール　山下さん夫婦の映像「息子への思い」
〈教材２〉ETV特集「わたしのCasa(家)　日系南米人“団地物語”」
　　NHKニュース　おはよう日本　“高い地元就職率のカギ”

3 時限目　「違う？同じ？城高生 vs ブラジルの高校生」

1 子どもの活動の流れ

この時限のねらい

同世代のブラジルの高校生、とブラジルの高校生との共通点、相違点を知る。とったアンケートを比較する。

① 映像（フォトランゲージで扱わなかった動画を編集したもの）を見て、ブラジルの学校の授業風景などイメージを持つ。

② アンケート結果について、ランキング形式にしたものを、いくつかの回答部分を空欄にして、それぞれに入る項目をグループ毎に考える。(ワークシート参照)

③ グループの考えと、実際の回答を照らし合わせ、共通点相違点について、気づいたことを記述する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇私たちは、将来の夢＝「職業」と考えていたから「まだ決まっていない」人が多いと思うけれど、ブラジルの高校生は将来の夢＝職業にとらわれずに「やりたいこと」を自由に答えているところが違うと思った。

◇大切なものはどちらも「家族」「お金」「友達」で変わらないんだ、ということが分かった。

◇日本について、とても良いイメージを持っているということが分かった。

◇「数学が得意な人が多い」と思っているらしいが、ある意味、一部の情報で判断されている。

3 使用した教材　〈教材３〉

同じ？違う？
城高生 VS ブラジルの高校生

Q1．将来の夢は何ですか？

	城高生（日本）		マルピアラ校（ブラジル）
1	A （11人）	1	C （13人）
2	保育士（5人）	2	自分の家を持つ（10人）
3	美容師（3人）		D （10人）
	ペットトリマー（3人）	3	B （5人）
4	お笑い芸人（2人）	4	幸せになる（4人）
	デザイナー・アーティスト（2人）	5	良い大学へ行く（2人）
	B （2人）		A （2人）
その他	小説家・社長・ラジオのDJ・翻訳者・メイクアップアーティスト・主婦・スポーツ関係の仕事・社会福祉士・キャビンアテンダント・会社員・公務員・人を助ける仕事・声優・アニメーター	その他	ゲームクリエーター・総合格闘家・サッカーのコーチ・軍隊でキャリアを積む・日本に行く・博士号をとる・トレーラーハウスで旅をする・社長になる・平和に暮らす・いつも夢をもって生きる・アメリカでプロバスケットボール選手になる

Q2 あなたにとって大切なものは何ですか？3つ挙げてください。

	城高生（日本）		マルピアラ高（ブラジル）
1	A （26人）	1	A （46人）
	B （26人）	2	B （37人）
	C （26人）	3	C （10人）
2	休憩・睡眠（7人）	4	勉強すること（8人）
3	服（6人）		健康（8人）
	食べ物（6人）	5	愛（6人）
4	家（4人）	6	幸せ（5人）
	自分の時間（4人）	7	食べ物（4人）
5	自由（3人）	8	彼女（3人）
	D （3人）		E （3人）
	音楽（3人）		知識（3人）
	愛（3人）		
その他	携帯、本、心、感情、ゲーム、夢、努力、自然、平和、環境、テレビ、自信、笑顔、笑い、エアコン	その他	試験合格、音楽、夢を持つこと、決断、世界の平和、協調、神様、旅行、スポーツ、共感、仕事、将来、尊敬、文化、睡眠、価値観、民族

	Q3.ブラジル人が持つ日本のイメージは？	Q4.ブラジルの良いところは？
1	近代的・先進国 10	美しい自然 26
2	A 9	親しみやすい人たち 20
	様々な伝統・文化 9	ブラジル料理 17
3	伝統料理 8	幸せな人たち 8
4	B 6	自然災害がない 7
5	人口が多い 5	気候がいい 7
	C 5	文化 5
	暖かい 5	スポーツ、カーニバル 2、尊敬、女性 2、サッカー、音楽 3 多様性
6	教育 4	
	D 4	
	尊敬 4	
	経済的に豊か 3	
その他	アニメ・漫画 2 環境問題、平和な国民、肉が多い 2、安全 2 経済が安定 2 、寺、数学が得意な人が多い、テレビゲーム、桜、自殺、良いものが多い、ロボット、自然災害が多い	

Ensino Medio（高校）
- Lit/ gram（ポルトガル語文法）
- Matemática（数学）
- DG（数学Ⅱ＆C）
- GA（数学Ⅱ＆C）
- Sociologia（社会学）
- História（歴史）
- Geografia（地理）
- Filosofia（哲学）
- Física（物理）
- CT（技学）
- Química（化学）
- Inglês（英語）
- Espanhol（スペイン語）
- Redacoa（論文作文）
- A& E（美術）

勉強している教科
この他に、保健体育、選択科目として日本語を取っている人もいました

勉強は好きですか？
はい 13　まあまあ 6
いいえ 20　教科による 3

高校生の間で何が流行っていますか？
ポケモン GO、iPhone, YouTube
サッカーゲーム（アプリ）、アディダス、スニーカー、おしゃれ（ピアス・イアリング・染髪など）、教室でばかなことをすること

LINE とかやっていますか？
Si(はい)59、Non(いいえ) 2
Instagram 34
Twitter 15
LINE 1

4 時限目　「持続可能な森林づくりの取り組み」　＊予定

1　子どもの活動の流れ

① 焼き畑の映像、写真を見て、教科書本文で学んだことが現実であることを知る。
② 森林の消滅と自分たちとの生活の関係を考える
③ アグロフォレストリという手法以外に、森林を守る手法が他に何があるか考える。

この時限のねらい

教科書の単元で「アグロフォレストリ」を学ぶ際、ブラジルで現実に行われている「焼き畑」の現状を知り、持続可能な環境づくりがどのように行われていくのかを知る。

2　予想される子どもの反応

◇焼き畑が毎日東京ドーム１つ分も消失していることに対する感想。
◇フェアトレードの製品を買うことが、環境や生産者のためになるが、「価格が高いほう」を選べるか。
◇いろいろな種類の植物を、植えるということが、自然に近い農法だということを知る。

3　使用した教材

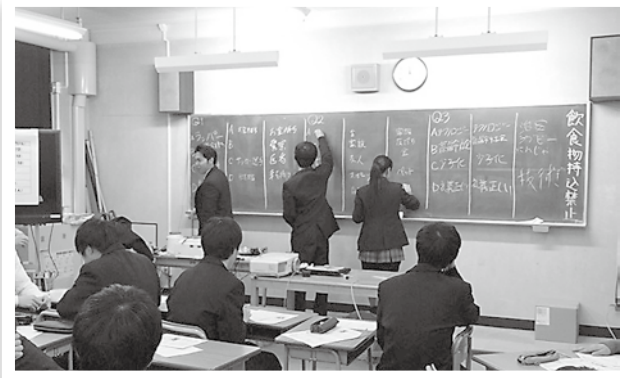
〈教材４〉焼き畑の様子（航空写真）
〈教材５〉カカオの実の写真

全体を通して

1　授業の様子

今回の授業実践を通して、自分とは全く関係ないと思っていたブラジルの人々が、日本食や日本語に親しみ、自分たちと同じような価値観をもって、平和に暮らしているということを伝えることができたと思う。授業実践の時間を確保するのが難しく、日系人移民の歴史、人種や民族の多様性など、深く掘り下げて伝えられなかったことは残念だが､今後､折に触れて紹介していきたい。生徒たちの感想から「海外に行ってみたくなった」「ブラジルの料理を食べてみたい」など、海外や異文化への興味を持った生徒がいたことは嬉しかった。文化祭の展示用に作成した掲示物は、英語の授業でよく使用する多目的教室に常時掲示している。興味を持った生徒たちが目に留めて、遠い国ブラジルが少しでも身近に感じてもらえたらと願っている。

〈写真１〉授業風景１



〈写真２〉授業風景２

国際理解教育ワークショップ

実践場所	神奈川県	横浜市立盲特別支援学校	実践者	枡見　瑛莉佳
対　象	教職員	時間数	1回（90分）	
所　属	通級センター機能部			
ねらい	・ブラジルにおける日系社会や日本文化について知る。 ・国際理解に関する授業をする際の新たな視点（自国のことに目を向けること）について考える。			

実践内容	回	プログラム	備　考
	10分	**「ブラジルの学校で紹介したいもの」** ブラジルの学校で1時間授業を任される機会があれば何を持って行くか、グループごとにアイデアを出し合う。	
	20分	**「教師海外研修（ブラジル）報告」** ブラジルでの研修内容や訪問先について知る。	現地で撮影した写真や映像を含むパワーポイント
	20分	**「日系人・ブラジルの中の日系社会」** ブラジルで日本文化が受け継がれていることを知る。 現地の日系人の様々な思いや歴史について聞き、二世や三世であっても自分を日本人だと思っている人がブラジルにもいることを知る。	現地で撮影した写真や映像を含むパワーポイント
	15分	**「ロールプレイ」** 帰化をテーマにした家族会議の場面を設定し、ロールプレイを行う。 最初は配られた台詞を読むところから始め、後半はそれぞれの役になりきって話し合いを進める。	現地で日系の方にインタビューしたことをもとに作ったカード
	15分	**「ロールプレイの共有」** 各グループで話し合ったことを全体で共有する。	
	10分	**「国際理解教育の実践について」** 自国のことを知る、他国における日本人について考える、自国における外国人について考える等の授業も国際理解に関する授業として展開できると気づく。	

成　果	ロールプレイを始める前に、日系移民の歴史や現地の日系人から聞いた話を伝えていたため、ロールプレイではどのグループも役になりきって活発に意見交換をし、ブラジルに住む日系人の思いを考えている様子だった。
課　題	自国のことを知ること等をテーマに授業を展開する際、どのような内容が考えられそうか意見を出し合うワークショップを次の段階として用意すると、今回の研修をさらに深められそうだと考える。
備　考	実際にブラジルに行って日系の方々とじっくり話せたからこそ伝えられることとは何か、どう伝えれば参加者が具体的に日系人の思いを考えられるか、頭を悩ませた。ロールプレイで役になりきり自分のことのように悩んで意見を交わす参加者の様子を見られて嬉しかった。

授業実践の詳細

1 （10分） 「ブラジルの学校で紹介したいもの」

1 活動の流れ

① ブラジルの学校で１時間授業を任される機会があれば何を持って行くか、グループごとにアイデアを出し合う。

この活動のねらい

海外で授業をするならば「日本らしいもの」を無意識のうちにテーマとして考えるが、後で日系のことを詳しく知ったときに「日本らしいもの」がすでに浸透し、大切に守られている場所が日本以外にもあると気づくことができる。

2 活動の成果・反応

◇おり紙、着物、箸等、「日本らしいもの」が挙がった。

2 （20分） 「教師海外研修（ブラジル）報告」

1 活動の流れ

① ブラジルでの研修内容や訪問先について知る。

この活動のねらい

ブラジルで私たちが行った様々な内容の研修について知る。

2 活動の成果・反応

◇ブラジルの広大さや自然の豊かさに驚いていた。

◇環境に関する研究施設訪問やJICA事業の視察等、様々な内容の研修を行ったことが伝わった様子だった。

3 使用した教材

〈教材１〉ブラジルで撮影した写真や動画で作ったパワーポイント

3 (20分) 「日系人・ブラジルの中の日系社会」

1 活動の流れ

① 日系移民の歴史を知る。
② ブラジルに住む日系人の思いや歴史を聞く。
③ 日系に関する学校や施設にはどのようなものがあるか知る。

この活動のねらい

ブラジルで日本文化が受け継がれ、守られていることを知る。
現地の日系人の様々な思いや歴史について聞き、二世や三世であっても自分を日本人だと思っている人がブラジルにもいることを知る。

2 活動の成果・反応

◇遠く離れたブラジルの地に日系の方が多いという話は耳にしたことがある参加者が多かったが、実際に写真を見たり、現地でのインタビューの内容を聞いたりすることで、その思いや歴史と自分たちとのつながりを実感している様子だった。

3 使用した教材

〈教材１〉ブラジルで撮影した写真や動画で作ったパワーポイント

4 （30分） 「ロールプレイ：家族会議　～就職？　国籍？～」

1 活動の流れ

この活動のねらい

日本以外の国にも、日本人として誇りをもって生活している人がいることを知る。

① 就職のためにブラジルに帰化するか悩んでいる日系一世の大学生とその家族との家族会議をテーマにしたロールプレイを行う。

・４人１グループとなり、役ごとに与えられた台詞を言う。
・全員が台詞を言い終わったら、それぞれの役になりきり自分で台詞を考えながら家族会議を続ける。

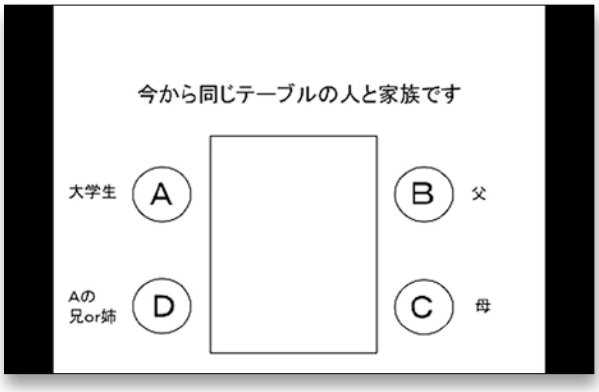
② それぞれのグループでどのような意見が出たかやどのような結論に至ったかを全体で共有する。

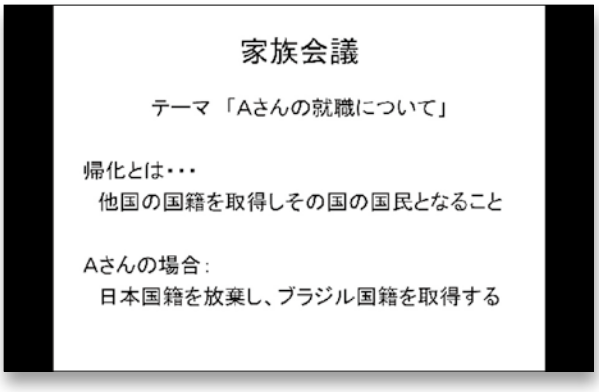
2 活動の成果・反応

◇ロールプレイに入る前に実際にブラジルで暮らす日系人の様々な思いや歴史を聞いていたこともあり、役になりきって積極的に意見を出し合っていた。

3 使用した教材

〈教材１〉パワーポイント（ロールプレイの役割等説明）





〈教材２〉ロールプレイの役割説明カードと役割ごとの台詞カード

5 （10分） 「研修の振り返りと今後の国際理解教育の実践に向けて」

1 活動の流れ

① 最初の活動でブラジルの学校に持って行きたいと考えたものは、すでにブラジルに日系文化として伝わっており、大切に守られているものだったと振り返る。

② 国際理解をテーマに授業を行う際、必ずしも外国の方を呼んだり、海外に行った経験をもとにしたりしなければならないわけではなく、日本に改めて目を向けることも一つの視点として考えられることに気づく。

この活動のねらい

「日本のことに目を向ける」「日本のことを知る」というテーマも国際理解教育を展開する際に一つの視点として考えられることに気づく。

2 活動の成果・反応

◇日本以外の場所にも自分は日本人だと思って生活している人がたくさんいることをロールプレイの体験から実感している様子だった。

全体を通して

研修の様子

今回の職員研修が始まるまでは、「自分は英語ができないのにこのワークショップに参加してもよいのだろうか。」と心配そうな様子の参加者が何人か見られた。私は今回のブラジルでの研修で、遠く離れたブラジルの地で日本人として誇りをもって生活されている方々からお話を聞くことができ、そのことを多くの人に伝えたいと思い、この職員研修を考えた。国際理解をテーマに授業をする場合、外国人のゲストを呼ぶ授業、どこかの国の文化を体験する授業、教員自身が海外に行って感じたことをテーマにする授業等が思い浮かびやすいが、今回の実践研修を通して、自国についての理解を深めることや、他国に住む日本人や日系人、日本に住む外国人に目を向けることも国際理解の一つの視点として大切なんだなと考える機会を提供できたと思う。

〈写真１〉ブラジルでの研修報告

〈写真２〉 ロールプレイの家族会議

2016年度 教師海外研修報告書

独立行政法人国際協力機構

横浜国際センター（JICA横浜）

〒231-0001　横浜市中区新港2-3-1

Tel：045-663-3220　Fax：045-663-3265

E-mail：yictpp@jica.go.jp

https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html